

国境に吹く 初秋の風は
すがすがしく 冷たい
華やかな季節の訪れが
めぐり来る

去年と同じように 指を見上げ
また一年の早さを実感する
これといった出来事もなく
毎年同じように年を取る事だけが
愚かに思われる

今と変わらぬ風景にいつまで
出逢えるだろう

そのような事ばかり考えるのは
私だけだろうか



夕暮れの八景楼

京都北山撮影紀行 ⑥

さん や しょう よう 山野逍遙

—— 秋の風を感じて ——

撮影 北川 裕久



茶の院 (八景にて)

●目次

表紙：松田敬勇「仙水峠より夕焼けの甲斐駒・摩利支天」(南アルプス)

●作者プロフィール●1943年、京都生まれ。京都市立芸術大学卒。
1967年より山岳雑誌、山岳系の雑誌多岐にわたる。京都府立総合資料館、南アルプス山岳小隊、後
京阪山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等二級山岳研究員

●クラビア 京都北山山影紀行⑥ 山野逍遙……………北川 裕久 2	陸奥(山ガキ)……………稀垣いつを	アツイク……………内田 善弘	純新峠から見える山―車中からの楽しみ―……………吉田 信秀 6	大杉谷にて……………8	紀行 荒島岳……………増永 迪男 9	大笠山……………松田 敏男 12	●(重載)日本霊山紀行 4 立山(大汝山)……………浅野 恭一 15	辰ヶ岳と長枯之峠……………多摩 雪雄 20	苗石山……………慶佐次盛一 23	大善賢岳……………酒井 賢治 27	エリア 京都北山山影 美山町から若丹国境の山へ……………北川 裕久 30	別研究 秋の気配を感じて、新愁コース(視観)……………34	①ホサビ山と平屋無二……………①頭口中……………38	②白尾山……………35	③知井坂と八ヶ峰……………36	④三園峠……………40	●文学歴史探訪ハイク⑥暗峠に菊の香を偲んで……………松永 恵一 42	コース①百里ヶ岳……………山口 憲次 48	ガイド②矢田丘陵を歩く……………濱田 啓司 50	③ニッ森山と南木曽岳……………内田 善弘 52	④堀坂山……………小山ひろし 54	●アウトドア・ライブ入門③	薬草をさがそう……………二名 良日 18	たのしい山歩き……………46	区類雑考⑥「尾瀬を彩る草もみじ」……………松下 謙 46	沿線ハイキングガイド……………55	S・H・C関西山行計画・報告……………62	せせらぎ……………59	バス時刻(第2版)……………66	サービステーション……………58	原稿募集・広告案内……………68
----------------------------------	-------------------	----------------	---------------------------------	-------------	--------------------	------------------	------------------------------------	-----------------------	------------------	-------------------	--------------------------------------	-------------------------------	----------------------------	-------------	-----------------	-------------	------------------------------------	-----------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------	---------------	----------------------	----------------	------------------------------	-------------------	-----------------------	-------------	------------------	------------------	------------------



高畑山(鈴鹿)

編集室



高畑山ナイフブリッジ(鈴鹿)

編集室

●巻頭言

近年ハイキングのスタイルが変わって来たように思う。以前はハイキングというよりも登山というニュアンスが強く感じられたが、今、まさにハイキングの時代となった。

戦後、日本は著しい経済発展を遂げ、都市化が進み、物資も増え、人々の生活はずいぶん便利になった。しかし本当に私達の生活や心は豊かになつたのであろうか。白いビル、コンクリートの高層ビル、全面舗装の地面、その上を走る車の列。無機質に築かれた生活空間と潤いのない生活環境の中で生きていく。しかもいつも急げ急げと忙しくせき立てられるような競争社会の中で……。

そんな都市空間からひととき抜け出して、たまには山へ入ってみよう。森の中を歩いてみよう。せせらぎの溪流に沿って歩いてみよう。石ころのある地道を歩いてみよう。風そよよく高原を歩いてみよう。石仏のある野辺を歩いてみよう。時間にせかされることなく、のんびりと歩いてみよう。自然にふれながら、風を感じながら歩いてみよう。きつと快い開放感が全身をつつみこみ、人間らしさを取り戻すことだろう。そして見失なつた自分を発見するだろう。

探検的歩行タイムを競うより、ルートの難易を競うより、もっと自由にのびのびとハイキングを楽しもう。自分の時間だから……。

新ハイキング関西(代表) 村田哲哉



克



克

随想 (山のエッセイ)

アツイタ

稲垣いつを

「アツイタ」の語源は「アツイタ」に焼いた食物、「厚焼き」のことである。厚焼き餅、厚焼き魚、世にいろいろ「厚焼き」があるが、ボクのあるところ、三重県の上野原の名物に、厚焼きかまぼこといふばわかつてもらふるだろうか、そんな「あつ焼き」なるものがある。ハガキより少し大きめで、1.5センチくらいの厚さに焼きあげた、魚の細い製品である。器するに形をいへば、魚製の版木のようなもの。この「あつ焼き」をまた、「あつ版」とも言う。これをそのまま煮るのを煮くように引きちぎって、牛乳や醤油で食べるとめづるうまい。今でもボクのお好物の一つである。もちろん一般的には、きちんと包丁を入れて小皿にあしらってから

いただくのである。しかしボクは竹筒でもなんでもこの種のものは、そのままかぶりつくことにしている。最近のあつ版は少々うす板になったようで、子供の頃感じたあの迫力がいまひとつ伝わってこない。しかしその原因は、もしかしたらボク自身の方にあるのかもしれない。

ところでそのあつ焼きが高校生活になって、生物部に入った「新生会」で、半田植物採集会「こんな楽しいクラブ活動、今時の学校でやっているだろうか。とにかくそんなイベントがあつて、野田やその周辺の山をふらふらして、近くの溪谷に出かけたのである。そんな時の先輩というのには本当に大きく見える。先輩らしい会話の中に、はじめて聞く半田名がポンポン出てくる。クサマルハナ、なにそれ、けつたいな名前やなあ」と心の中で思ふ。イフヒトデ、「なににな、谷にもヒトデがおるんか」とドツキン。そんな中で、やたらと例の「アツイタ」の名がとび出す。「な

んや、この先輩もあつ版が好きなんか、もうか当の話しよる」と先輩初は親近感をもつて聞いていたが、じつはそうではないらしい。さきう岸の清水がしたたる中庭を指さして、「あれアツイタとちがうか」などと問い出すのだ。な、なに、なんぼなんでも、あんなことにあつ版があるわけがない。ペリカン先生も、「そう簡単にあつ版は見つからんぞ。あれはヘラシダや」と言うところ。あたりまえや、こんなどころに、ちくわやかまぼかとおつてたまるか。うん？ だがまてよ、と思ふ。不安になる。いつから願へたつて……。不安がどんどん大きくなる。ちょっと聞いてみようかと思ふ。しかし、ウツな新生会にはそれができない。不安がどんどん大きくなる。とにかくこの採集会は、何事もなく楽しく終わり、さて家に帰ってからである。兄のリンゴ箱から図鑑を出して、その日の採集をする。その中に、あつた、例のア

アツイタ、ボクのお好物のアツイタが、「日本半島植物図鑑」に載っているのではないかと、今、手帳の図鑑を調べてみると

「あついた(あついたしだ)ちからほし魚、八丈島、根付半島以南の環道の山中樹林下の湿度の多い岩上、崖の面、または樹上にはえる常緑性多年生草本であるが稀品である。」

「北陸新聞」『紋野新日本植物図鑑』とある。もう30年も昔の話である。今ボクの部屋には、その後採集したアツイタの標本が、きまり悪そうに額を掛けて飾り納まっている。



続新幹線から

見える山

— 車中からの楽しみ —

内田 嘉弘

名古屋を立ち上り豊田市付近まで、遠くに濃尾山(六二九m)、四野の背後に六所山(六二二m)と地蔵山(六八四m)、豊橋の手前からは観音山(四二二m)、武野の麓を走る本宮山(七八九m)、吉野山(三三二m)、登山マラソンがある右巻山(三五六m)は、二年前その大会に参加し「ブルー、ブルー」と言いながらゴールしたことを思い出しながら読めた。

浜松で放棄山(三三三m)、浅間山(五二二m)、三富山(四六七m)、観音山(五七八m)、光明山(五四〇m)が見えるが、春登山(八八二m)は確認できず。続いて栗ヶ岳(五二四m)の後は、静岡に近づくと忙しくなる。菩提山(六六七

七m)、高城山(八五六m)、その奥に無双山(二〇八三m)、さらに天狗石山(二六六三m)と七ツ峰(二五三三m)が目立ち、その後に出かけた大瀬山(三三二九m)と小瀬山(三二五〇m)か、屋根形の観音山(三〇二二m)を数年前の二月に確認したことがあるが、今日は読めない。静岡市街地に近づくと美光山(二〇三三m)、大瀬山(二〇八八m)、文殊岳(二〇四二m)、それに名前が分からないうが尖った山が見える。清水市辺りから山が海岸に迫り、トンネルが続くその間からみかん畑の浜石岳(七〇七m)。

トンネルを抜け切ると定年土川の鉄橋の向こうに富士山(三七七六m)、製紙工場のエントツの後の富士山へと変わっていく。車掌が左手に富士山が見えます」と車内放送をしてくれる場合もある。やがて富士山の裾野から黒々とした愛蔵山連山が、左より綾前岳(二五〇四m)、位前岳(二四八八m)、愛蔵山(二一八八m)が盛り上がり、



随想 (山のエッセイ)

その視野が駿河湾へと広がって行く。駿河湾の向うに伊豆半島の柔らかな山並みが見える。天城山脈の最高峰方三郎岳(二四〇六m)が見えているかもしれないが、私には確認できない。三島から箱根山連峰が目に入るが、神山(二四三八m)、駒ヶ岳(二三二七m)は見えないようだ。

新井郡トシネルを抜けると、左上に昨年ランニング登山をした岩戸山(七三四m)。後は小田原までトシネル、トシネル、トシネル。小田原から振り返ると明神ヶ岳(二一六九m)と矢倉岳(八七〇m)の間から山梨県側の雲がぱつたりと付いた富士山。小田原・新橋間は丹沢山群ばかり、鍋釜山(二七三三m)、塔ヶ岳(二四九二m)、大山(二四六六m)といずれも東京出張の帰りに登った山が見え、やがて町並みからコンクリート山群となり、東京駅ゴールとなる。

これらの山々の確認は、二回の東廻りきでチェックしたものです。

が、時速一〇〇キロ以上のスピードの中で山岳同定は、なかなかしんどい点があります。確認を逃しているうちに、次々と景色が変わるからです。この遊びをやっていると箱根の中でも箱根らしい。トシネルの中と名古屋付近、新橋浜―東京間は眼になるだけで、東京―東京間はあつという間に過ぎてしまいます。

大杉谷にて

冷やかに
深山に入りし
渡し舟
晩秋を
空から落ちる
千尋滝
晩秋に
微笑みし滝
ニコニコと

攷秀

幽かなる
秋の夕暮れ
野々淵
秋深し
鶴返らす
平等岳
過ぎし日と
変わらぬ谷と
我を待つ
秋風に
ゆれる吊り橋
君と行く
深谷の
寒気に覚めし
山の家
枯木立
青空を染く
日出ヶ岳
(吉田 信秀)

しもやま
下山コースから
荒島岳

荒島岳周囲のブナ林と、まぼろし大垂の写真を撮りに、10月下旬の5時45分、福井の家を出た。国道158号を車で行くうち、大野市手前の花山峠で霧となる。九頭龍川の山あいの小さな集落下山(↑R徳美北線の駅がある)を過ぎても、霧の中だった。

国道が向にぐもりと曲る所から、スノーセツト直前で左折、川を渡って林道に入る。あとは幼い杉林の間の荒れた道を、終点まで登った。標高約700m、晴れていれば眼下に九頭龍川の細い流れと、下山の途をまき見せる所だが、あいにく今頃は霧に包まれていた。ただ車の音だけがすかすかに聞こえていた。

山頂を歩いて7時40分より歩く。やがて霧が白く光り始め突然雲霧の上に出た。ブナの

増永迪男

福井

木立を透して、日を送びている荒島岳の東面が現われてくる。あじとな紅葉だった。その間に高い滝をかけた七ザコ(土地の呼び名で七つの紐い谷)が見えている。

下山コースから荒島岳に登るためには、先ず嶺ヶ原山1317mから東に延びてくる長い尾根を辿らなければならぬ。崩落にぬれて小さな峰を越えて登った。道の同様にネマガリダケのヤブが現われ始める辺りから、荒島谷川に向かって一気の下りとなる。やがて前方より、とうとうと落ちる水音が聞こえてきた。低い木立を避けて眺めると、ちよと日差しが滝を二分したところだった。両側の岩壁の上に立つヒノキの木立が、黒く際立っている。その周囲の山肌は、灰白色に光

荒島谷川の霧霧



るブナの幹の煙なりだった。道は急降下となり途中ロープ二箇所、小さな水流を追って、荒島谷川のほとりに出た。この間の下りは約200m、始めから荒島谷川に沿って登って来たなら、という気にもなるが、そこらには通過不可能に近い崖下が続いている。

晩秋の口差しは、まだ谷底にまでは届かなくて、どこかひやひやする谷間だった。その



荒島谷川大垂

年の5月に、この近くで遭難者が出たということもあったのだが。

目の前で、南から来る五丈ヶ谷と大垂からの本流が一つになっている。飛び石伝いに、一つになった本流を渡って、向こう岸の低い岩場を授した。渡った地点から10分ほど上りの、岩の間に短いロープが見えている。そこが荒島岳への入り口だった。

大垂を見に行くには、本流を少しさかのぼり、流れが左に鋭く曲る所から、左の急斜面をブッシュを頼りに直登するのが、唯一のコ

ーストとなる。登れば絶と正対する細い尾根の上に出る。滝は一段に分かれ合計落差、約60mはあるのか。

岩に手足をかけて、いささか古いロープを頼りに登り切ると、道はしつかりして来て、左に下段の流つぽを見おろすようになり、歩くほどに、山肌の傾きもゆるやかに変わって来る。荒島谷川の深い谷を間にして、さきほど通って来た尾根が、ようやく同じ高さに見えてくる。辺りまで登ると、周囲は紅葉のブナ林となった。振り返ると、口はちようど正面より差して、色づいた葉が赤く光る。太いブナ木立ちの間から眺める荒島岳の主峰もみことだった。

澄みきった空の下に、ぐっと迫り上がっている頂上の近くは、笹の緑の輝きだった。下るにつれて山肌は、葉を落した低い木々に覆われ、更に秋の色どりへと移り変わって、私の立つ位置に近づいてくる。登るほどに、山道は、古いブナの立つ尾根を道のようになる。左に、荒島谷川源流を囲む原生林が広がって来た。

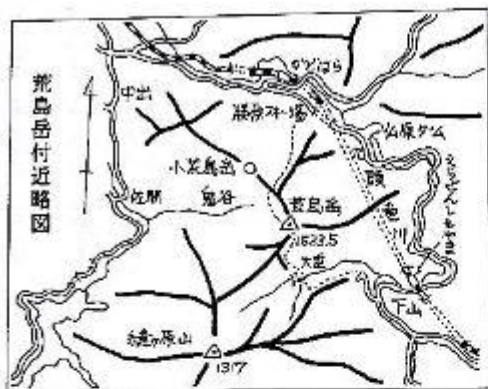
ナナカマドの紅葉を数えながら登るうちに、ブナの太木が周囲から見えなくなる。あとは、山道にしなだれかかっているネマガリダケを、いささかうつろしく思いながら分

けて行った。山道の所どころに、ぐっと折れ曲げられたダケが立っている。しばらく前に通ったひとが、目的のために折って登ったのだらう。しなだれかかるとヤブを我愛して進むうちに、とうとうこの世のうねりの上に顔が出た。

全てが明るい日差しのもとに展開する眺めだった。足元から遠望しに続く尾根は、途中から紅葉のブナ林となって、まだ暗く見えている荒島谷川へと続いている。その先に今いる荒島谷川へと続いている。見つめ奥樹間の山々の淡い重なりであった。見つめているうちに、馴染みの山が、ひとつひとつ浮きあがってくる。北は、見あげるばかりになった荒島岳の山頂だった。黒い影をつけた岩が、あちこちに見えている。

登りの尾根が、鎌ヶ原山からの尾根と合流する地点で、山道はネマガリダケの密葉の中に、完全に消えた。やれやれと思いつながら、ヤブコギで前進するうちに、再び、笹の間に道が現われる。笹の成長に敗けて、道が消えていたのはおおよそ10分ほど前の間だったのだらうか。あとは笹丈も低くなり、快適な尾尾歩きとなった。西の鬼谷側の彼方に、大野盆地が広がってくる。

頂上への最後の登りは急登だった。たまた足元のみを見つめて登る。途中に大きな岩があ



荒島岳付近地図

り目標となる。とうとう山頂に立つ反折板が近づいてきた。11時45分荒島岳頂上到着。頂上の小さな広場は、登山者でなかなかの混雑だった。いさなり都会のまん中に来たような気分がする。とにかく人の間を避けて、小さな岩の上に出た。

一度に境界が広がる。北アルプスが見えた。笠ヶ岳、槍ヶ岳、キレット、穂高岳、それらが銀色に光る白出沢と美濃岳、御岳、あと北に白山と、山また山の一度は登った福井の

山の群れだった。

帰りも同じコースを通った。荒島谷川を渡つてからの、登り200mがほんとうに絶景となる。平成2年10月21日歩く。

▲コースタイム▼ 下山(1時間) 林道終点(1時間) 荒島谷川(3時間) 頂上(3時間) 下山

▲地形図 2万5千1:荒島岳・下山

▲参考

○下山コースは山道としてはすすめられな

い。やはり山なれたひとの登山道であらう。○初めての荒島岳の場合は、勝原スキー場からのコース(登り3時間)が有意となる。



ネマガリダケ (ヤブコギ)



キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48ℓ 赤札 ¥9,000

アリゾナ35ℓ // ¥6,800




〒540 大阪市天王寺区南河堀4-70

TEL06(772)7231

FAX.06(779)2191

特長

① パラレル、インナーフレーム付

② スーパーウエストベルト付

一日に八山を登る

大笠山

おおがさやま

松田敏男

白峰

大笠山を初めてゆつくり眺めたのは、筑ヶ岳登山の入山ルート、雄谷からであった。筑ヶ岳の西方向になる雄谷は、谷沿いに平坦な路が中吉屋温泉の湧水管入口まで続いている。それは数年前の5月の連休、左下に深く雄谷の新緑を、右山腹にカタクリの群生を見て進む、うらわしい春の喜びにあふれた道だった。その谷の奥に、とても1800m級の標高の山には見えない笠々とした大笠山の姿があった。千手平を前に抱き、雪をしつかりまとっている大笠山は突然とした風格があった。いつかはきっと登ろうと思いついたのは、当然の成り行きである。

その機会がようやく巡ってきた。筑ヶ岳登山の時に同じ思いを募らせていた大山さんた

ちと、敏者の日の連休に出かけた。前後出発のつもりであったが大気がすぐれず、早朝出発に切りかえた。しかしまだ強い雨はおさまらず、各種高圧電線を雨の山道に、温泉旅行に変更しようかという気持ちがおきてきそうなる。先は心細いものだった。高圧電線をおりて国道を舟橋をゆつくり走ったが、巨頭にはブナと杉に着いてしまった。時は太い立派なブナの林の中にあつた。ブナが雨でけがっている。まずはテントを張って暮らそうとする。明日は天候次第で引き返す地点を決めるということになった。酒を飲み、昼食をして、少しして夕食という体調気分が過すこととなった。ブナ林が夕ぐれて闇を運ぶ頃、林の奥の方に奇妙な明かり

見越山より(左)大笠山(右)奈良岳を望む



があるのに気づいた。三人で眼をこらすが、林の中のキャンプ場には誰もいない。雨はシトシトと降り続いていて、闇が深くなるにつれ、妙に明るい光が妖しくなっていく……。その夜は、用を足すのもテント近くで済ませ、酔いも醒めて眠った。

朝になっても霧雨だった。奈良岳まででも行けたら充分に満足、いやこんな山深い所に来られただけでもよかったと、遅瀬の域に入

らうと気を配りながら、歩き始める。大山さんが「リーダーのおかげでここまで来れた」と妙な褒め方をしてくれる。聞き慣れない歌の鳴き声に一回足がとまったが、一声しただけであとは静かだ。深い霧にブナ林はぼんやりしている。

しかしそのブナの樹林はすばらしかった。

赤摩木古山への登り道はブナの太木が全面を覆い、まさに万緑の中の登りだ。体をいまいきとさせる間があった。葉がたくさん重なって深い緑をつくっている所から、一枚の葉が空の明るさを通して浅い緑まで、無數の色合いの緑が微妙であたたかく滑々しいト

ーンをつくっている。雨に濡れて光っている緑は一面鮮やかだ。そんなうっとりした気分を、急激だが一歩一歩ゆつくり高度を上げていく。雨に濡れて光っている緑が、あちらにもこちらにも、なぜか強く光り始めたように見えた。足もとの小径の土の色が、緑に染まり始め、理髪機に光った。日差しが。濡れたブナの葉が、下生えの草たちが、一言に光る。しかしすぐに暗くなる。光ったりかげつたりを繰り返すが、確実に天気は良くなっている。

形界のきく所に出現、一回は驚いた。先程までの霧はすっかりなくなっていて、遠くが見えるではないか。剣が見える、草節岳も、途端と歩調は力強くなる。雄、雄、雄と乗換盛もしっかりと見え始め、赤摩木古山に到着、目指す大笠山がドンと姿を現わし、すくなく左に筑ヶ岳、それらの奥に白山がくつきりと顔を覗かしている。天気予報を大きく勘してこの大観、リーダーの精進の動物と、大山さんは驚いてくれた。ここからの筑ヶ岳と大笠山は、南北が並ぶが南アルプスの北岳と間ノ岳を、ふ



つと思ひ出させる標図だ。

見越山を白括して西の方向に曲がる。せっかく登ったのに離分下らねばならない。見越山は実りきみで豊かだ。長々と丸太の階段があつて、歩幅を強要されて足がだるくなる。しかし登り着いた頂上は、悪逆な大笠山がじわりと近づいていた。下りも登り同様に急だが、見下ろした時の感じ空もななく、奈良岳の登りにかかると、奈良岳は大笠山を小迎にしたようなゆつたりした山容で、四へ長い尾根を張り出している。頂上は少し広めで、その分流水が周りを覆い、足元からすつかり見渡せるといった展望ではなかった。筑ヶ岳は大笠山の後ろに隠れ、もう大笠山一辺倒という気持ちにさせる。5、6人のパーティーがその頂上で休んでいた。奈良岳でもう充分といった感じだった。同じ気分になつてはいけないと、すぐに出発。またまた道はしっかりと下つていく。

しかしその数部は美しかった。池があつて、その上に遠く乗鞍岳が青く連なり、高山気分の涼やかな場所だった。そして往きでは最後の登りになる。大笠山は、これまで進んで来た連山の中では一段高いため、登り中葉があつた。でも5月の雄谷で、はるか奥に美しく輝かしていった姿を見初め、熱い思いを



大笠山より白山・気ヶ岳を望む

暮らしていたその大笠山の最後の登りだと思
うと、歩道は自然に早まっていく。
そしてついに念願の大笠山頂上。大きな山
名の標柱があり、広い山頂だ。気ヶ岳はぐっ
と近くに見えるようになったが、こちらも同
じ位の高さがあり、背後の白山に大きくのし
かかるように覆われてしまっ、尖峰の気ヶ
岳は存在感が薄くなっていて、頂上の周囲は、
ナナカマドなどの灌木が生い茂っているの

で、期待していた千丈平とか頂上直下の池な
どは見おろせなかつた。

食事も簡単に、半分倍で盛り始める。良い
道のりを引き返すことを考え、何か落ち
着かない。今日中に家までたどり着かないと
いけない。ここは富山県と石川県の境だ。
それを北へ山を三つ越えるのだから。

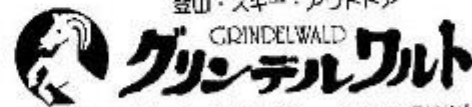
赤澤木古山まで戻った時は、バテ過ぎて熱
が出そうだった。しかし大向山へも往復する。
最後の下りでは、思わず「あと高尾山いくら
あるの」となればヤケクス気味に叫んでいた。

一日で赤澤木古山、見越山、奈良岳、大笠
山、大向山の五山を八回登った訳だ。
きのうの夜の妖しい光は、赤澤木古山を下
る時に、谷に幾重の建造物が見えたので、そ
れから光が燃していたのではないだろうか。

無事、その日のうちに京都に帰ることがで
きた。コースタイムはその日の記録だが、一
般的には二、三割多めに見込んでおいた方が
いいのではないだろうか。

平成2年9月16日歩く
八幡平タイムアップナオ時5:25 赤澤木古山
7:5 見越山8:15 奈良岳8:50 大笠山
10:20 11:00 大向山往復アップナオ時15:35
【地形図】2方5千—西巻尾、中宮温泉
5方1千—梨、白川村

地域に合った品揃えを目指しています。
三重県唯一のプロショップ
登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。



営業時間 AM10:30~PM8:00 毎週月曜日定休
三重県四日市市諏訪町13-3 TEL 0593-54-0627

連載

日本霊山紀行 4

たてやま
立山(大汝山)

3015m

浅野孝一

富山県立山町の「立山神社」は立山につい
ては、立山と別山との二項目に分けて説明し
ている。即ち「立山」は越前中新川郡ノ南
方ニあり、立山村大字蘆崎寺ヨリ凡十里ニシテ
其山頂ニ達ス、標高九千六百八十九尺」又、
「別山(立山ノ一峰、越前國中新川郡ノ南東
方ニあり、立山村大字若嶺寺ヨリ九里十八町
大字蘆崎寺入會堂山ヨリ九里十八町ニシテ其
山頂ニ達ス、標高八千五百二十七尺)」
現在の立山登山は信州側、富山側共に、ケ
ール、ロープウェイ、バス等を利用して歩
かず堂々に達することができるようになった
が、30年前までは大変であった。

山の絶頂に登らんとせば二徑あり、(一)信州
口、(二)越前口是なり。……(二)越前口、
富山側より人力車にて蘆崎寺(標高三七五米
突、山の西麓、立山の神は在らず)に到り八
里にして堂堂に達す」とあり、信州口の経路
は略した。

雄山の山頂に立山権現の奥社の雄山神社が
ある。立山権現については、江古中坊の百料
群衆であった、寺島良安著の『和漢三才圖會』
巻六十八越前國の項に「立山権現、在神川郡
祭神伊弉諾命也、社額五十五石、祭四月八日
神興七社(岩崎寺別當大台堂標高二十四坊
麓、大宮御目止至)、総本山一凡十三里八
町……中津原一ノ里名、爾陀、風、右、有、高
山名垂脚、其麓、有温泉……」と記してい

立山山頂



山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 北アルプス縦断 | 34 新巻山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・北三山 |
| 3 奥穂高・奥穂高 | 36 奥山 |
| 4 妙・立山 | 37 魔王・奥山 |
| 5 上高地・狭・穂高 | 38 奥山・早池峰 |
| 6 奥蔵高岳 | 39 八幡平・奥山 |
| 7 西岳 | 40 十和田湖・奥山 |
| 8 伊豆山・奥山 | 41 二七〇・奥山 |
| 9 木曾駒・奥山 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 平賀岳・北岳 | 43 白山 |
| 11 塩見・赤石・奥山 | 44 富良野・伊吹・奥山 |
| 12 奥山・奥山 | 45 御在所・奥山 |
| 13 志賀高原・奥山 | 46 比良山系 |
| 14 野井沢・奥山 | 47 京北山1 |
| 15 西上米・奥山 | 48 京北山2 |
| 16 奥山・奥山 | 49 京北山3 |
| 17 ハッパ・奥山 | 50 北越山系 |
| 18 富士・富士山 | 51 六甲・奥山 |
| 19 箱根 | 52 箱根山系・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 奥山・奥山 |
| 21 丹波 | 54 紀伊山系 |
| 22 高尾・奥山 | 55 奥山 |
| 23 人形峠 | 56 大峰山系 |
| 24 奥山 | 57 大分山系・奥山 |
| 25 奥山・奥山 | 58 奥山・奥山 |
| 26 奥山1・奥山 | 59 奥山・奥山 |
| 27 奥山2・奥山 | 60 奥山・奥山 |
| 28 奥山・奥山 | 61 奥山 |
| 29 奥山・奥山 | 62 奥山 |
| 30 奥山 | 63 奥山 |
| 31 奥山・奥山 | 64 奥山 |
| 32 奥山・奥山 | 65 奥山 |
| 33 奥山・奥山 | 66 奥山 |

〔*印は新刊の地図です〕

●昭文社の「山と高原地図」は毎年数冊として毎年高
興発行されます。この山と高原地図はなるべく最新
な地図をお使いいただけます。この地図は、この
地図がございましたら、本社編集部の「山と高原地図」
コーナーにお知らせください。また、新刊情報等
をお知らせいただけます。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪府大阪市東区中津6-11-23
電話06(305)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・新潟・岡山
名古屋・東京・京都・広島・福岡

立山(大汝山)付近略図



●地形図 2万5千1立山
昭文社「14剣・立山」
●この地図は平成3年8月18日の記載。翌19日は
室堂乗越・大汝山・大日平小屋(谷)編
宅しました。

●(平成3年8月18日歩く)
▲夏季タイムアップ立山縦断?・10-1-1
縦9・10・9・35・大汝山10・35・10・45・大
汝山11・05・12・00・富士ノ折立12・10・大
走り分岐12・30・別山乗越12・45・13・00・別
山13・48・13・55・別山乗越14・25・14・35
1-ロツジ立山縦断15・00

な差異が認められるが、寺説話が現在調査と
なっているようである。即ち先伯右の千右
頼が16才の時山中に入り立山修験道を完成に
導き、のち伯右となり堂殿と称したという事だ
であるらしい。

立山三山とは待土山(2831m)、楳山(2
992m)、別山(2880m)をいうのであ
る。登拝を目的とした人は室堂付近に一泊
し、一ノ越を経て雄山神社に参拝して室堂に



室堂乗越より見た立山一帯

前である。標高2991・6m、雄山神社は
その先の岩峰の上であり、3003mである。
縦断の場合は社務所でお札を受けてから左下
の縦断を下っていく。

次のピークは大汝山で、立山乗越の最地点
となっている。山頂下に休憩所があり、さ
らに岩の間の山稜をたどった先が富士ノ折立
であり、前方に真砂山が見えてくる。縦断路
の右手は内蔵助カールで進むと岩壁が残っ
ている。下り切った後部から左右へ別れる登
山道は大汝リコース、曹洞平への最短コース
である。この付近はかつて大勢の遊覧者を出
した所である。3000mでの天候の変化は
不測の事態をひき起こすことがある。

真砂山の右下に内蔵助山荘があり、前方に
別山が見えてくる。別山へは横断路の縦断
路から分れ、右上に登って行く。広い山頂か
ら北方に剣岳が見えてくる。別山から再び縦
断路を下り、剣岳から大日平への横断路を歩
みながら別山乗越へ下る。

別山乗越には御前小屋があり、剣岳・剣
沢への登山道が多く交差する所である。一休
みしたら左へ青い沢やいしの登山道を下って行
くが、登山道のまわりにはたきさんの高山植
物が咲きみだれていて、立山三山の地帯をか
ざるものがある。この日も山上の風景に入り
ゆつくり休んでから第三ピークを下山にあそる

室堂平へは信州側からは奥部トンネル、立
山トンネルを経て、前山側からは地蔵立山駅
からケーブルで美女平に降り、弥陀ヶ原にあ
る立山自然歩道をバスに乗り室堂ターミナル
に降る。室堂平の北西の御前川上流には地
獄谷があり豊富な温泉がこの付近の山小屋に
引寄せられ、常時入浴できるのがありがたい。
そしてミクリガ池、ミドリ池、リンドウ池等
の旧火山口があり、水面に立山連峰の姿を写し
込んでいる。立山三山の縦断は室堂平に一泊
して第一日目に歩く。

室堂平から一ノ越へは多数の登山者と一緒
になって登って行く。左手に雄大な山々を見
て登り、右手の坂道を登り、早い時期には雪
の上を歩く。左手の山頂平からの登山道と
合流すると登山道はジグザグとなって一ノ越
に上がって行く。奥山は広がり黒瀬湖の上は
後、立山連峰が見えてくる。山頂を越えて直
進する登山道は東一ノ越を経て立山トンネル
の途中にある山頂へ下っていく。右へたどる
と待土山で、約1時間の行程であるので休
してみたい。一ノ越から雄山へ登る人、下る
人で混雑する登山道をたどるが、落石に注意
したい。雄山の三角点に立山神社事務所の手
前である。標高2991・6m、雄山神社は

野外塾

●薬草をさがそう

関西アウトドアスクール

校長 二名良日

朝日新聞の「自然入門ビデオ」シリーズの取材で、30年ぶりに知床を訪れ、40年を背負って、摩訶菩提、霧降山の縦走コースで、高山植物などの撮影指導をやってきました。

登山初体験の実作カメフラマンの「何でこんな暑くて苦しい……」と言うナギを聞きながら「この暑さを逃れるスベは？」との若い修業僧の問いに「暑い時には、オマエさんを焼殺せよ」と曰った中国の禅僧を思い、夏の山行に玉の汗が掛けられ、木陰・深水の涼もまた有るべからず……と実感しました。

夏の強烈な太陽に育まれ、木々の葉は緑しい首縁の深まりを見せ、植物達は成長し充実のクライマックスを迎えます。人間の方は夏バテの青息吐息で、土用に薬草を採取し乾燥して愛飲したり、丑の日に強精のウツナギを補食するなど、暑気のりきりに大変です。

①民間薬

人間に最も身近な自然である植物の薬効を健康に活用する生活の知恵は、アフリカのアロエ、ヨーロッパのジキタリス、スペインのサフラン、南米の coca、中国のチョウセンニンジン等に代表されるような、薬用植物民族文化を生み育ててきました。もちろん、植物の豊かな日本にも、(田舎のおばあちゃんの手伝い)として伝承されてきたゲンショウコ・

ドクダミ・センブリ等の庶民的な「民間薬」があり、水戸黄門の「救急妙薬」等は、その集大成を自給した代表例です。

②漢方薬

しかしやはり、中国「漢方」の薬草大博物医学の体系は圧倒的で、元朝神農の名も、その一大ブレイクをかたる「本草綱目」は、我が国にも伝えられ、薬草・漢方のイメージを作りあげるほどの影響を与えてきました。

黄柏(キハダの樹皮)・山椒子(クチナシの果実)・山葵(マノイモの根茎)・地骨皮(クコ)の根皮・車前子(オオバコ)の種子・陳皮(ウシユヅミカンの果皮)・杜仲(ツトド)の根茎・玄門冬(ツヤノヒゲ)の根茎・木通(アケビ)の蔓茎・竜胆(シンドウ)の根と、何れも非常に、薬草木の部位の薬効を特定し(動・植物も含む)、更にそれらをブレンドして、〇〇症状、〇〇体質に有効という膨大な事例を属聞しています。

現代の西洋医薬が、人工化学的・運動的・対症効果的なのに対し、漢方は、複合的・全身療法的で、日本の民間薬は、局所的・対症療法だと言われています。

③薬用植物の生薬

薬効がある……と伝承されている植物は、最近で自然、フィールドのどこにでもあります。

④薬効

伝承、民間、経験などを総合すると、以下のような薬効が言われており、日本薬局方の含有成分表示で確認できる。

ヨモギ(葉)・血通(根)・クズ(根)・猪毛菜(葉)・クナシ(葉)・カヤ(葉)・カヤ(根)・クナシ(葉)・黄道(葉)・カキ(葉)・シヤク(葉)・モモイ(葉)・イナジク(葉)・イナジク(根)・アサガオ(葉)・アサガオ(根)・アマドコロ(根)・強壯(根)。

⑤薬と薬

ジキタリス・トリカブト・マムシグサ・スズラン・オモト・センニンソウ・ウルシ等の有毒植物が、特別の用法で薬用となる例もあり、薬草全般に薬人利用は厳禁です。採取法・処理法・保存法・道具等々の基本的知識・ノウハウも数多く、個々の薬草について、学者専門家のアドバイス、経験者の直接指導を、ビデオやスクールで確認しましょう。

お知らせ

①「二名良日先生ビデオ」薬草をさがそう
価格06(357)2710(サンクラブ)
〒530大阪府北区紅梅町1-144B
②関西アウトドアスクール
電話06(531)1810(的場農林)
〒559大阪府西成区西本町2-16-19

その多様さに驚きます。佛山ハイクの里山から自宅の庭先までをチェックしてみますと、
①里山—コブシ・ヤマザクラ・ヤマウコギ・サンショウ・イヌザンショウ・ニワトコ・タラノキ・クロモジ・アケビ・マダタビ・エゴノキ・マユミ・クヌギ・ヌルデ・ホウノキ・モミ・スギ・アカマツ・アカメカシワ・ウド・イチヤクソウ・イカリソウ・ヤマノイモ・カタクリ・ヒトツバ・スミノキ等。

②野原—カワヤナギ・オニグルミ・エンジュ・クララ・マダケ・カワラヨモギ・ハトムギ・セリ・ヤナギタテ・セキショウ・トウシソウ・カワラケツメイ・トリアシシヨウマ・ハツカ・イタドリ・トウキ・アサ・ヨシ・ガマ・シヨウブ・ハス・コウホネ等。

③野原—キキョウ・リンドウ・センブリ・ムラサキ・アカネ・フレモコウ・ノイバラ・イノコズチ・ヘクソカズラ・タケニグサ・オミナエシ・キツネノゴマ・センニンソウ・タコ・リュウノギク・アカサ等。

④土手—フキ・ヨモギ・クズ・ヒガンバナ・ジャノヒゲ・ギシギシ・ハハコグサ・ノビル・チガヤ・オオバコ・ハツカ・タンポポ・ゲンシヨウコ・ノアザミ・クサボケ・ツリガネ・ニンジン・ウツボグサ等。
⑤田圃—タネツバナ・ナスナ・スベリヒ

ユ・ハコベ・ハブソウ・カラスビシャク・ニラ・ニンニク・ゴボウ・サトイモ・カボチャ・ナス・ゴマ・トウモロコシ・スイカ・ネギ・アズキ・ササゲ・キササゲ・ダイズ・トウガラシ・ダイコン・ニンジン・シソ等。
⑥果樹園—ミカン・ダイダイ・ユズ・キンカン・クリ・カキ・モモ・イチジク・ビワ・ウメ・アンズ・ザクロ・ナツメ・カリン・リンゴ・オリーブ等。
⑦鎮守の森—クスノキ・ヤブツバキ・ヤマモモ・カヤ・モミ・クワ・ユズリハ・クロガネモチ・クチナシ・アオキ・クサギ・スイカズラ・ヒトツバ・ヤブラン・カラスウリ・フユイチゴ・テンダイウヤク等。
⑧庭園—ユキノシタ・アサガオ・アロエ・スイセン・ホウセンカ・オモト・ボタン・ムクゲ・アジサイ・キク・オニユリ・ナンテン・レンギョウ・カラタチ・ニシキギ・アマチャ・ヘチマ・サフラン・テウセン・イノモトソウ・サンシユ・アオモリ・キヤラボク等。
⑨海岸—ツルナ・ハマボウフウ・アシタバ・ツバキ・ハナナシ・ハマスタ・ハマビシ・ウバメガシ・タア等。
⑩用法
振り出し・煎じ・茶・焼き・蒸し・浴用・薬酒・薬膳・生食・生汁・汁搾り・貼り等。

合戦の山

賤ヶ岳と呉枯之峰

湖北

多摩雪雄

長浜観光バス「観音の里」湖北回遊めぐりを終えた翌日、高月駅から予約のタクシーで、昨日目撃した観音めぐりを続け、江土の手狭神社まで下車したのは10時50分。

無住だが、水も便所もあり、石段を登った拝殿前の、立派な神楽殿が上がって、ゆっくり昼食後、小雨の賤ヶ岳山本山歩道自然史勝路に入る。頂上へ4.5kmある。時に12時ジャストであった。

雨中の賤ヶ岳

尋常小学・岡田遺跡本 巻十一・文部省の、第一陣隊旗の七木道に、

「春は来りぬ。徳勝の雪も解初めたれば、柴田勝家、先づ佐久間盛政をして一萬五千の兵

を率ゐ、近江の柳瀬に附つて出でしむ。待ちまうけたる秀吉は、琵琶湖のほとりに十三箇所のとりでを構へ、諸將を配置して防備をきま整なし、やがて勝家また自ら五萬の兵を督し来りて盛政の軍に合す。

時は天正十一年四月二十日のあかとき……と、あるが、史実は、一番槍をつけ戦死した石河兵助、榎井佐吉の二人を加へて九本槍とすべきである。と、いう。

ともあれ、点名江戸4等三角点209・36が、高山右近が守っていた高島山らしく、大岩山岩は、中山道秀が千名たらすぞ守り、全員壯烈な最後をとげた地であった。天和二年、首秀五代目の嫡孫久恒が、百回忌に、此処に立派な主従の墓碑を建立した。

小雨の賤ヶ岳頂上



合戦から四百十年目の今日、小雨にびしょ濡れの樹木に囲まれて、幾層階を経た葛城は、下余呉の人等によつて串い続けられ、今も新鮮な野花が供えられている。

奈良藩方面に目撃らしのいい地を北・南にした、平坦な倉地は、敗退する盛政軍への追撃戦を指揮していた秀吉の、前線指令所・倉ヶ馬場で、其処から二つ目の大沢4等三角点269・666の崖側を巻いて行く、この付

近が尾野路山で、朝林中の静かなルートとなっている。

南方に目撃らしのいい蜂ヶ峰344mに蜂標を過ぎ、ほとんど平坦な天然樹林の緩下道を進む。

尾野路の茂丘が前面に現われ、便所標を左手に見え登ると、其処が、賤ヶ岳の小さい頂上で、ストロップのある草店ではTVもあり、ケーブルで登つて来た人々が、雨中の史蹟を探索したり、展望台からかすみ奥琵琶湖を眺めたりしている。

賤ヶ岳3等三角点451・136は、山頂の中央東寄りにある。また、疲れきつて足をと



投げ出し、槍にもたれて座す銅像は、片桐三元らしく、その前面の、大石の記念碑の脇にある合戦図によると、この周辺の山々は、ほとんど前線の陣地であり、奈良湖をめぐつて激戦、退却した盛政軍や、北陸道氣保の本陣から引きあがった勝家の援軍を務めて戦死した、毛野寛弟の墓は、今市にある。

40分の間、暇かく休ませて貰つた洗濯を14時40分に出て、前面の本陣を下つて行く。いま、切通しと言われている敵ヶ浦坂は、盛政の弟勝政の陣軍が奮闘して、秀吉軍の進路を阻止し、九本槍の勇二によつて突破された地を、盛政深く、奈良湖へ下つて行った。

奈良湖より3・5kmの、国民宿舎・奈良湖荘を右手に見たのは、雨のあがった15時10分。熊鷹とも言われる、水の増えた奈良湖の西岸の、コンクリート道をのんびり辿つて、民宿村の川並に向かった。

戦跡跡に、太田場と大輪車場のあるピクニックセンターの手前陣地に、大きな合掌造りの民宿・文右衛門は、レストランも併設した旧家で、16時10分に着いた。

「加賀尾山城主佐久間盛政、能登七尾城主前田利家、そして、ひと際大きく噴出大星・御池」とした三枚の大看板を掲げ、大塚を露出した二階の客間一部屋は、好評であった。

夕食は、饅頭焼、鯉甘漬煮、小エビヒツカササの唐揚げ、鯖、烏賊と車草と大根の煮付け、ぜんまいの煮物、二膳にはカニ足が二匹分。鯖、鮎のさしみに鯉の洗い。大正エビ、カニ足、白身魚のフライ、野菜サラダとスパゲティ。誰もが、また、来たいね、と、言う、食べ切れない豪華な夕食であった。

呉枯之峰経遊

木之本駅を8時40分に出る。地蔵の香道寺までの商店街には、パン屋、弁当屋、駄菓子屋、食器を置く店がある。

小学校に沿つて東に進んだ突き当たりが、ゴミ焼却場で、其処から赤松と雑木の中の小道をジグザグに、わりとよい支機をゆつくり登つて行くと、階段があつたりして歩き易く、良く整備されているのは、入山者が多いからである。時に踏み跡が、左右に入り込むのは「地蔵井あり」と、門前町の店屋に表示されていた、そのルートでもあろうか。

頂越近く、左曲する手前の右手の湯原に、千田4等三角点393・556が、赤松林を背に埋定され、左後方には賤ヶ岳から湖東の丘陵が、今日の快晴の天空に連なつて見える。

細い流木の後上道で、ほぼ東北に向かつて僅かずつ登ると、独標482mのミツ頭は、



呉松之塔標示板

小広い草地で、太い黒松が散在し、右側斜面より細く尾端ノ上ルートが合する。
 新め石手へ下る道を二ヶ所見送る頂は、ほとんど登降のないブナ、ナラの若い樹林の中で、長大な椽上の突端は、西斜面が伐採されて、大岩山・賤ヶ岳の後縁の後方に、湖西の運山が見えるが、東側は立木に遮られ、呉松之塔一等三角点531・866の標高は、雑草の中から鏡を出していた。
 此處の標示板に「見聞山」と、マジックで添え書きがしてあるが、古文書にも記載がなく、誰かが、どこからか抽出されたものであるが、地元でこの名称を知る人はいない。
 この山の西側の緩斜面は、暮千の馬場といつて、住時は洞窟であり、賤ヶ岳と北陸道を挟んで、木之本峠を守る甲上山系も、霧

吉田の重要な巻であった。
 10時40分に着いて、10分休んだ後、吉田の巻を後にする。
 田上山との間の谷には赤川林道が通じ、三ヶ点から数分で、赤川へ下る判察とした切開き道を見送って、正面の頂根に入る。道程は判然としているが、細枝が張り、草叢がぼさびさして、すぐに踏み跡は消えるが、鏡を外さぬように通る。
 間もなく良い道程が現われ、小枝を押し分けて鞍部に回ると、其処から境界標石が点在して赤き良くなり、下大見への良い道を右に見送って左曲すると、音山寺へ0・8kmの指標の建っている十字路に出る。
 奈良湖北岸の天女の羽衣御は、何代目か知らぬが、羽衣を匿されて、ひとり地上に残された天女から生まれた音公（音原清良）が、幼少の頃遊学された地で、天正三年（1575）6月4日、照壇上人開創になる音山寺には、彫出した天冠台を頂上に有する珍しい平安期の金箔仏の十二面観音が、施錠された扉を組格子から、かすかに覗かれたのが、無住なるが故に、現代は奈良町の博物館に収蔵されている。隣接する天満宮とも、音公を祀っている。
 この天平寺は、7代孝仁が、女帝孝謙か

ら譲位され、東美和院事件に巻き込まれて淡路に降され、孝謙が重祿して赤徳となった8年間である。
 11時35分に音山寺下り口に着いて、音山寺往復、昇降後12時45分に出発する。
 北行する後上ルートは「ウッドイパル赤呉・赤子山」へ向かう、車も通行出来なくなったが、私は「後参道より坂口」への西降ルートを選んだ。
 左手が見晴らしの良い参道には、十四体の地藏が散在し、やがて、大箕山音山寺の大鳥居の横つ、坂口付近に13時20分に着いた。余呉駅まで30分の距離である。
 (昭和63年10月22日、平成3年10月10日、12日歩く)
 ハコースタイル、略 文中を参照
 (地形図) 2万五千ノ竹野、木之本
 (参考) 湯野の里湖北国まぐり観光バス4月より10月までの日・夜日 予約
 長狭駅前時20分発 最長付3850円
 予約申し込み
 長狭バス営業所 0749 (52) 3201
 伊香クシ高月 0749 (85) 2036
 民宿文右衛門 0749 (86) 2425

千種富士

笛石山

あの山にはぜひ登らねば……と、思いながらも、浮気性の私はつい隣の山にかまけてしまつて、すっかり登り忘れていた山がたくさんある。奥指鹿の笛石山もその中の一つなのである。
 9年も前の秋のことだった。日笠山(鎌倉山)・一等三角点の頂に高いながら、足下に織りなす千種の美しい田圃風景にみとれていた。美しい田圃風景ももちろんのことながら、目下と秋の日は千種の町を巡る山々に目をこらさず。岡山県の最東端、美山(行香山)板馬見山、教養山、淡仙寺山(1344・6)から東南に伸びる尾根の末梢にこける笛石山と、その東に顔写を写すかのように対峙する横松山の姿が私の心を捉えてくさくさ。あ

慶佐次 盛一

播磨

の二山にはぜひ登らねばならない……と、その時心に誓っていたのだが、日さんから横松山登山の話を聞かされた後、私はいつの間にか忘れてしまつてた。
 横松山の名を聞けば自然ながら笛石山の名も思い出す。古い登山ノートの頁を繰ってみると、なんと9年も前に日笠山からみそめた山ではないか。そのつらさと裏ついていた山が、いつの間にか年も経たずにいたのだ。月日の経つのは早いものだと感じると同時に、必ず登りに行くぞと約束した久懐の友人に、まだ来ないのかとあきれかたれているような気がしてならなかつた。
 横松山登山の前にはまず笛石山に登り、次週は横松山にと、まるでなじられた恋人に絶



びるように「逆巻の登山を味わって見出しな。笛石山と横松山は「兵庫の山やま」多田繁次巻に詳しく、登る前に両巻をひもこいてみる。笛石山は、水ノ山・淡山郡・岐山公園からわずかに外れてはいるが昔か女山らしい。しかし難は無いとあるから、敢てきは覚悟の上で日さんと日さんの3人で出発した。大阪駅前から中国自動車道津山行の高尾バスに乗車、安芸郡高尾で下車する。台風21号

が関東へ去った翌日だったから天候もまた不安定で、バスの走行中には時々激しい降雨に見舞われて今日の山行が思いやられたが、葛根は道端が少々濡れてはいるものの雨も上がり、今日の山行になんとか自信が持てた。

千草からタクシーを呼び、笛石山の登山口のある千種町の平瀬へ向かう。今日は自転車ロードレースでもあるのだろうか、色とりどりの流石なシャツを着たレーサー達が長蛇の列を作りながら思い思いに自転車に乗っている。緑豊かな橋州路のレースは、さぞかし快道なロードレースになることであろう。

やがて、とうとうと流れる千種川沿いをタクシーは走る。日名倉山、三室山に訪れて以来の懐かしい川だった。秋の陽光にさざなみをさらさらと輝かせながら流れる川は、都会人には心の安らぎを覚えるような美しい流れだった。

さてこれから登る笛石山だが、先ほどの雨では藪まで登るには身体を濡らす恐れがある。私達のそんな話を聞いていた運転手は、笛石山なら登山道がありますよと云う。初めから道なしの藪山を予想していたから、これはちょっととした驚きだった。登山口まで車で入れますからとの運転手の言葉に甘えて、登山口まで入って貰うことにした。

千草に近づくと左に日名倉山が見え、後山から流れる緑線の先に、正面につんととるのほこから見える笛石山だ。右にどっしりと裏山を誇るのは檜松山ではないか。9年前の日名倉山から眺めた光景が彷彿として蘇ってくる思いだった。

千草を過ぎ、千種川を渡って平瀬の村路にさしかかる。「千種富士 笛石山登山口」と書かれた、観光協会の大きな看板が出ているではないか。笛石山が千種富士と呼ばれているのはこの時初めて知ったのだが、つんととる第十形の笛石山にはまさわしい別称ではないか。それよりも、観光協会の登山口の大きな看板が、不安定なお天気の下行にとっては心算がかった。大きな看板があるからには立派な登山道があるに違いない。今日は藪ごきをせずとも登れそうだ。

平瀬の村路の、最奥の農家までタクシーは入ってくれ、舗装道もここまでだった。車を降りると急降に小雨が降りだした。通り雨だった。台風引身の余波が残っているのだらう。農家の人が近くに居て、笛石山の由来を聞けたのは幸運だった。

なんでも笛石山には「笛石」という石があるらしく、その昔、秀吉の中国遠征の時に口崎長次殿主野政頼主従が、古くは「しきく

き」とも言ったこの地に逃げて来て、藪を持っていた。そんな時、笛石から笛(法螺)の音が聞こえてきた。それは味方の竹山城の使者が、樺太の到着を知らせる合図だった。それが、宇野政頼主従は敵軍の攻撃と勘違い。もはやこれまでに、自力で果てた。それ以来、笛を吹いた石を「笛石」、笛石のある山を「笛石山」と呼ぶようになったという話だった。笛石は樺の姿にも似ているので、「樺石」とも呼んでいると親切に教えてくれた。

笛石は岩で、千種の町を一望する名所だとも付け加えてくれた。登山道はあるにはあるが、今の時期では草が茂って判かるだろうか、とも注意してくれる。こうした話は、初めて土壇を訪れる者にとつては大変有益だ。御礼を言っ、舗装が切れた地道の林道を、笛石山の麓部へ向けて歩く。通り雨は傘をさす程の降りでもなく、いつの間にか止み、林道も履口の中を登る農道と変わる。農道には道標の期があり、トクンの尿を飲んで中に入る。道標には小さな道標もあり、なんだかハイキングコースを歩いているような明るい気分になる。農道は高度を上げるにつれて雑林帯となり、やがて笛石山から南へ流れて来た文尾根の麓部に着く。

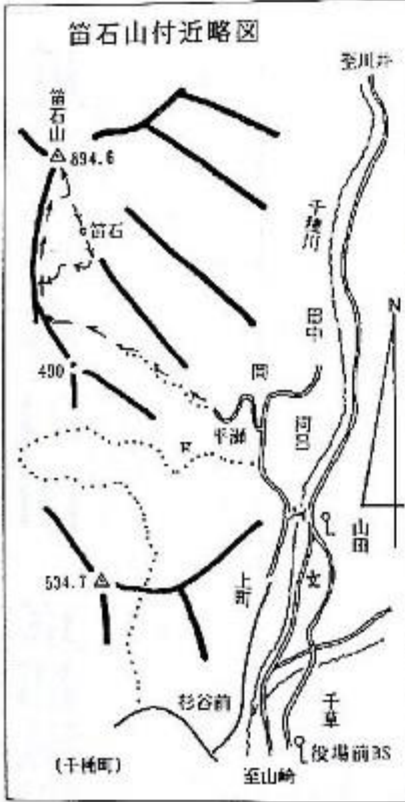
登山者が残したと思われる赤い残置テープ

があり、笛石山へは案に登れそうだ。鞍部から右へ折れ、北へ向かって植林帯の中の踏み跡をたどった。案に登れるというのは、踏み跡も無い藪山のようにルートファインディングの手間が省けるということで、笛石山の登りは地形図の等高線が示すようにかなりの急登が続く。まして今年には次々と台風が通過したから根木の風倒木が前進を阻む。

一休み、二休みを重ねながら登るうちに、踏み跡は完全に消えてしまった。道を間違えたのだろうか? 北へ高度を上げる支尾根の左は明るい雑木帯、右は薄暗い植林帯だ。登

りの足はやはり明るい雑木帯の方へ向かうが、雑木帯の方はイバラ藪がひどかった。藪を避けて暗い植林帯を登るうちに、植林帯も切れ完全に雑木帯となった。幸いにもイバラ藪は無かったが、風倒木や風にちぎれ飛はされた枝などが笹の中に重なり、山は荒れているのだ。季節はずれのやまつじが咲いているのでびっくりした。きつと台風の影響で季節を間違えたのだろうか。

踏み跡も無い雑木の中だったが笛石山の方



がら高度を上げて行く。かなり頂上に近づいた時である。Mさんが見失った登山道を見つけた。それは私達が登っていった支尾根の少し右(南)側にあつた。紛れもなくよく踏まれた登山道だった。こんな明快な道はどこで目通してしまったのだろうか。登山道を暫くたどると笛石山の頂上だった。

低く低い灌木の中に切り開きがあり、きれいな三角点が埋まっていた。三つのコブを連ねる日名倉山が手の届くような近さに見え、東には檜松山が鬱蒼とした山容を誇っている。北に見える笹の三室山は雲に頭を隠し、僅かに山腹のキャンプ場の赤い屋根を露せていた。台風の後だろうか風が強かったが、笹藪を背にして風を避け久懐の頂で昼食とした。

下山は例の登山道を下ることにした。こちらも時々風倒木に塞がれ、一気に高度を落とす道だった。そんな急な下り道の途中に小さな岩峰が立っていた。これが笛石だ。見る角度によっては樺の姿にも見えるから、笛石の異名があるのにも頷ける。笛石の上に登ってみた。足下に千種の田園を見下ろす素晴らしい展望台ではないか。日名倉山や未だに登る檜松山も遠るものない美しさを醸えていた。

笛石からのつかの間の展望を楽しんで、明るい雑木林を更に下った。道は次第に山腹を

近江朽木の山

山本 武人著 B5判・二〇〇〇円
 踏み荒らされていない自然がこんな近くにあることを知ってもらいたい——朽木山行会
 約20山クラブ・フリークガイド地図付。

京都滋賀南部の山

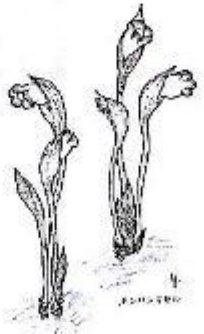
内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円
 木津川、宇治川、野洲川に囲まれた御米前後の山々は、古社寺も多く、歴史をたずねての静かな山旅が待っている。ガイド地図付。

ナカニシヤ出版
 京都市左京区吉田二本松町2
 電話 075-751-1065 〒606

トラバースきみになり、最後は薄暗い植林帯を横切って行く。このまま進めば、初登った尾根に合流するのではないかと思つたが、その通り自然な傾斜の緩んだ朝の尾根に合流した。植林帯のトラバースは始と踏み跡も無い道だつたから、朝登る時に登山道の分岐が分からなかつたのも当然だ。もう一度笹石山に登る機会があつても、私はこの分岐には気がつかないだろう。観光協会が登山道の看板を建てた頃には、恐らく明快な分岐があつたものと思われるが、今では笹石山に登る人は稀と見える。

は、千種町歴史民俗資料館がある。千種は、明治時代までは「千種鉄」として有名なタカラ製鉄の盛んな所であつた。今でも製鉄は豊富にあるが、採掘があまり採掘してないだけなのだ。歴史民俗資料館は、そんな貴重なタカラ製鉄の資料を陳列、解説しているから、時間があればぜひ立寄るべきだ。幸いにもバス待ちの時間もあり、歴史民俗資料館でゆっくりとタカラ製鉄の鉄道をささげて頂き大阪に帰つた。平成3年10月24日参り

後場町一高根 谷神庭バス
 (地図) 2万5千—四河内・千早
 ※尾根にはタクシイがないから、千早タクシイ(07990-7612062)へ予約すること。
 680円



和佐又山ヒユツテから

大普賢岳

私が山に登る最大の楽しみは、何といつても山頂からの眺望である。山頂を極め雄大なパノラマを見て「あれがA岳、こちらがB山……」などと確認することは本当に楽しいものだ。肉眼で確認できる山々、更に双眼鏡を使用して確認できる山々と眺望の興味はつきない。山頂のパノラマを写真機に焼き、台紙に貼つて保存することも、今では山行の重要な日課になつてしまつた。

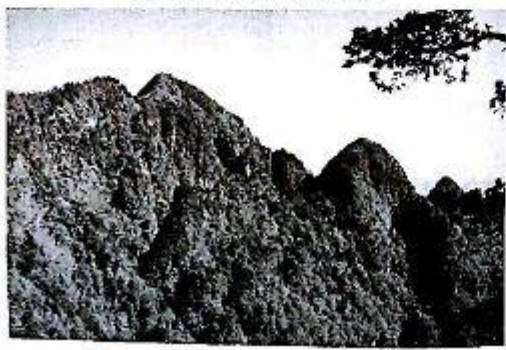
「何んで、山に登るねん」と人から聞かれ、「そこに山があるからや」と答えた人がいたとか……。私の場合「山頂に展望がまつているからだ」と答へたい。

登り、阿婆陀ヶ森を越えて朽木に下山したので、今回は山頂から七尾岳を越えて無双洞のコースをとることにした。10月19日、正午近く息子の車で自宅を出発。一路169号線を南へ走る。途中、白雲岳や白雲岳など景観の美しい山々を見ながらの快適なドライブ、15時前に伯耆系トンネルを越え和佐又山口バス停につく。朝のバス時刻15時17分を確認し、まだ紅葉少ない和佐又林道を歩く。登るに従い背後の紅葉山がせり上がってくる。このまま林道を登ってヒユツテまで歩けば大白山の山々のパノラマが楽しめるのだが、無事に残しておこうと途中から和佐又谷の沢コースを歩く。美しい溪流、苔のついた石、鳥の鳴き声などを楽しみながら谷をつめ、山腹

酒井賢治

大峰

大普賢岳・小普賢岳・日本岩



をまいて16時すぎ和佐又山ヒユツテに到着。当夜の泊まり客は、毎日登山の会など団体グループもあり相当の賑わいだつた。翌10月20日また薄暗い5時40分朝食を終えてヒユツテを出発。笹ノ原尾根を目指して登る。無取洞分岐あたりで周囲が一段と明るくなるが、日の出は和佐又山に隠されて見えない。しかし空は徐々に青くなり今日一日の晴天が約束されたようなもの。一時晴れかけ

の樹林赤きあと指澤の朝朝口の滝を通流、ハシラを登って空の窟に至る。

日本兵の両側、垂直に落ちる巨大な岩壁、その下部に自然に造られた幅広い窟、全く何回みても飽きることのない絶景である。私達より先にヒュッチャを出た4人グループが朝霞をとりおられる。ここから日本岩を右に回り込み、岩を登って日本兵と小菅賢岳の鞍部に立つ。樹林と小菅の気持もこの所、北側の地獄谷からの風が汗ばんだ肌心地よい。

鞍部からは岩のやせ尻根を登るが鉄梯子もつりられており、岩壁に登ることが出来る。やがて小菅賢岳中腹に伝説する石のハナにつく。ここは、やせ尻根に張り付くような大岩で好景舞台である。南方向は遠く赤山八経ヶ岳、東側ヶ岳と大峰主峰が手にとるようだ。東側は日本兵の一部を過ぎられるものが高、大台の山々が薄く眺められる。北側は深く切れ込谷の向こうに伯母谷取とそれに続く巨大な岩壁が続いている。東側近く大峰主峰の七曜岳、行者道岳の稜線の向こう側、神蓋子谷からガスが湧き、こちら側の水太谷へとたれ込んでいる。早朝ならではの景観である。

私達はここで約15分小休をとり砂糖抜きのコヒーとチョココレートの味を楽しんだ。



大菅賢岳付近地図

ースで大菅賢岳登頂らしい。マイカー登山らしく帰りのバス時間を気にしない登山がうらやましい。やがて水音が高くなり谷が見えはじめ11時30分頃無双河に下りつく。

無双河探検は無視、谷を渡った広場でラーメンとおにぎりの昼食をとる。下には水庫の流が落ちている。流の音、樹木から落ちる水滴、日色づき始めた木の葉、秋遊一人だけではない、いたるところにの場所と時間である。

12時ちょうど無双河を出発、小菅賢岳や日本兵下部の山腹をトラバース多みに歩く。ハシラや鎖のついた岩場を登り、鹿井戸を横にみて静かな樹林帯の道へ出ると、後はもう

小菅賢岳は北面山腹をまき、少し下つていよいよ大菅賢岳東面山腹にとりつく。見るからに険しい東面もいざ登れば歩き易い道がついており登り切った大菅賢岳道に達する。しかしこの間、所々に地獄谷の枝谷が道のすぐ側まで突き上げており泊所はない。

東と北方向の一部は凍木に遮られていたが他は全開だ。ここで初めて西方向が展望され真正面に稲村ヶ岳がおにぎりのような大巨岳を促して佇立し、さらにパブリヤの頭まで乱れ谷のような稜線が続き川道川方面に下つている。山の上ヶ岳の大峰山寺の瓦屋根も露やかた。稲村ヶ岳と山の上ヶ岳の間には、深く金剛山と真城山がはつきり見え、その鞍部水越峠を隔てて六甲山系を双眼鏡でキャッチ。更に山の上ヶ岳と電ヶ岳間に、わが居住地の生駒山も明確に確認することができた。

感懐は東方向だった。遠く大台山地から南側に賑々と続く山なみの稜線が、空の青色と

逢うことのない道で、一時和佐又山ヒュッチャを目指し、やがて今朝通った無双河分岐を経て真つ直ぐ下って13時50分無双河佐又山ヒュッチャに到着した。午後の小山小屋はのんびりしたもので、マイカーが何台も駐車しており、この山域での日帰り登山者が相当多いことを知る。14時前、私達はヒュッチャを出発、和佐又山ヒュッチャへ林道を下る。

下るとつれ大竹方面の展望が開ける。いつも思う事だが山腹につけられたドライフエーが濡々しい。途中で大坂稲村ヶ岳の大峰グループのマイカーに便乗させていただく。この人達、今朝4時大坂を出発の大菅賢岳ヒュッチャ登山であったとの由、稲りの途中、入道屋敷に入浴されるとの事で聞かまく稲原へも同行し、さつぱりと汗を流して、16時すぎ上市口駅で下車させていたたき近鉄特急で帰手、一日半の大菅賢岳山行を終える。

とて、この山日記には後日誌がある。大菅賢岳の土、稲村ヶ岳、私は単独で朝霧山、三ツ塚を登って夕方時に出てその夜は稲村小屋に泊まった。翌朝、小菅王の赤井氏に先日、「大菅賢岳から太平洋の海が見えた」と話した。しかし、同氏いわく「大菅賢岳から海が見えるはずがない。それはあんなの船賃

は突つた乳白色をしているので、双眼鏡で見たとこの何とそれは海ではないか。しかも二隻の小さな船が浮かんでいる。鞍部の乳白色は実は太平洋の海だったのだ。私達は「海が見えた。大菅賢岳から海が見えた」と何と大発見でもしたかのように喜び合った。

山頂での約30分、大菅賢岳山頂は私達二人だけのものだった。8時40分頃、素晴らしいパノラマを惜しみつつ、山頂を後にした。急な坂を下り再び奥路道を徒歩、七曜岳までは樹林と小菅の静かな道、何箇所かの悪場も無事通過、時々左側が開け、今日歩いてきた日本兵、小菅賢岳、大菅賢岳がラクタクの野のように眺めて水太谷を隔てて佇立している。10時すぎ七曜岳に立つ。ここは岩壁で四囲の山々の展望は勿論、オソ小菅谷が互元からスツパリと切れ、Sリリリくらしいの落差で神蓋子谷出合いまでずり終りに落ち込んでいる。

若者4人グループが食事をしている。今朝和佐又山から無双河経由での七曜岳ヒュッチャらしい。約20分の休憩後、七曜岳を後に無双河への分岐から水太谷めがけて急下降。下るに従って樹々の間からみる大菅賢岳がせり上がり、見とれていると背骨が痛くなるくらい

だ」と一瞬、見えた、見えないと論議が続いたが結局、「大坂の主たる人が何と無知な……」と思いつつ私はお引きさかした。

しかし、よく考えみると赤井氏一族は昔より海川から稲村ヶ岳への道を開かれ、僅乳洞を発見され、小屋も展望台も建てられ稲村ヶ岳には大きな展望台もつておられるのだ。稲村ヶ岳から神蓋子谷をはきんで向こうにある大菅賢岳まではとても目がとどかないのである。次の日、私はこんなことを考えながら稲村ヶ岳を往復し、こんな素晴らしい登山道を歩いていたのだと赤井氏に感謝しながら、山の上ヶ岳を登山して海川に下つた。

- ハコースタイムと和佐又山口 (1時間10分)
- 和佐又山ヒュッチャ (1時間 笹の窟 (1時間30分) 大菅賢岳 (1時間20分) 七曜岳 (1時間) 無双河 (1時間) 和佐又山ヒュッチャ (1時間) 和佐又山口
- 全行程 2万5千歩
- 昭文社「56大峰山脈」
- 険い合わせ
- 和佐又山ヒュッチャ 074688 (0) 00000
- 分道 近鉄八木駅より奈良交通バスで新宮行き待合、杉の木のりかえで和佐又山口へ
- 時間 八木駅 8時51分 - 12時31分
- 和佐又山口 登頂後は15時17分

京都北山 (六) 美山町から若丹国境の山へ

秋の気配を感じて、郷愁コース

北川 裕久

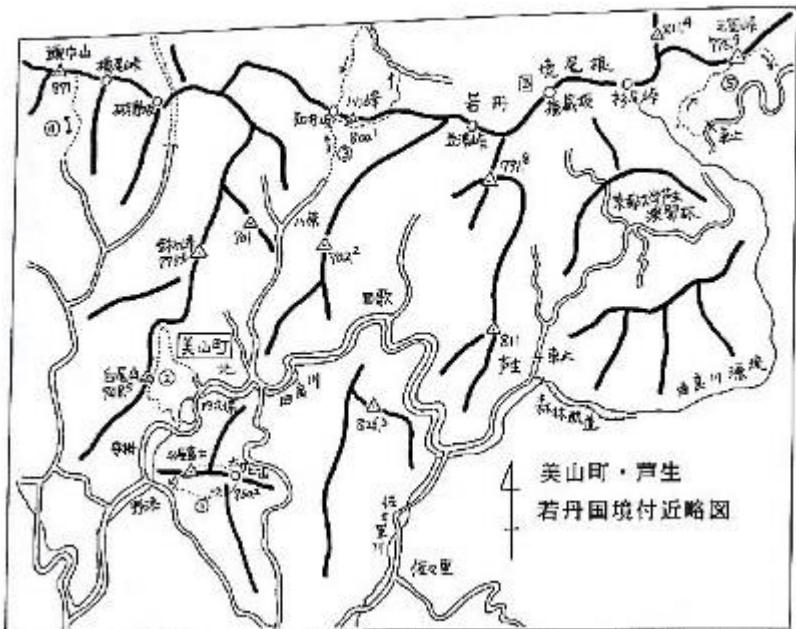
エリア別徹底研究・京都北山は初秋号(6号)をもって最終回、今回の5コースを追加して全部で29コースとなった。

最終回は少し遠方ではあるが、マイカーを利用しての山行となる。京北町の北に広がる北桑田理美山町は、若狭越えの旧道が若丹国境の尾根筋に互差し、若狭からその昔、生活物資が運ばれた買録ある古道と言える。現存する古道は、アスファルトの幹線道路やトンネルとなつてしまつた所もあるが、一部を除いてそのままの形態をとどめている。

美山町へは眉山街道(R162)を北上し、北山杉の美しい高雄・中川を過ぎ、栗尾峠を越えて南山、さらに162号線を北上し、上馬淵を過ぎるとやがて深見トンネルに入る。

トンネル上部には旧道があり、この時以北が北桑田理美山町となる。時は分本横にあたり大塚川流域から由良川流域へ越すわけである。本号のコースとして紹介するホサビ山と平屋富士は、この先の野添にある。あまり人の入らぬ山だけに、自然の姿はそのまま樹木の美しさは言うまでもない。平屋富士は、九鬼ヶ坂の南にある平屋から眺めれば、その山容に「富士」の名もうなすける。

また、美山町には鉄山が多く、山を歩いていても鉱山掘跡のほら穴等に出くわす。昔マンガンや少量の銅等の鉱物が産出された所である。従つて北山の水は「あまみ」といわれるのもマンガン質のミネラルがあるためだと思ふ。



いふ集落があり、ここに一つの伝説がある。昔は上久保村といわれ、150年前頃に宮内清兵衛という人が、村の大飢きんにもかかわらず上納米を取り立てる代官所に、自分の死を覚悟し五つの免割り(二免は十石の米を二免にしてもらいたいと訴えたが清兵衛は殺されてしまふ。川に流された葬巻を引きあげると中から指が二本出ていた。この指は二免をさすもので、藩主の耳にも二つの免下げを承諾した。しかし強訴は許されず家族は流浪しく家は没落した。その屋敷跡は、今、畑となり、野田圃のほとりにある。義民宮内之

北欧風の建物、長治谷作業小屋



きて、由良川に架かる大きな赤い鉄橋のある所が安掛で、漁協水産センターや農協、農振センター等の建物があり、みやげ物や土地の産物を紹介したりしている。ここは京都市体ロードレースの起程点となつた所で、巨体以後新たに整備された所でもある。

鉄橋を渡ると国道は左、九鬼ヶ坂方面へ曲がるが右を取ると由良川沿いに田歌、芦生方面へ通じる。荒貴、大内を過ぎると内久保と

碑と刻まれた石碑は清兵衛の功績をいつまでも伝えるものである。

この先、由良川が大きく東へカーブする所に北(北村)という集落がある。ここは日本でも数少ない古代集落の残されている所で、その歴史は定かではないが、家の造りや屋根の形から見ても丹波地方独特の形態をとどめ、美しい山々を背景に、村の中心に立つと2、3世紀昔に戻つたような気になせられるのは私だけだろうか。北村の西側から北西へ真っ直ぐ突き上げている谷が津ノ本谷で白尾山への登山路となる。やはり、この谷も荒れている。山好きな人なら一度は登つてみるだろうが、交通の便がわるいので、登山道の状況資料が少ない事が荒廃の原因になつているのだと思う。この尾根から眺める山また山の連なりは心に深く刻まれる筈だろう。最近、白尾山周辺でクマにおそわれるという事件をよく耳にする。白尾山西側の妙久谷でも数十年前に新聞に載つた事があり、津ノ本谷でも3年前の4月、山仕事の人がおそわれたといふ。この前日、私は、この谷を歩いていたら、肝を冷やした経験がある。美山町の山域にはツキノワグマが棲息しているので十分注意して歩いて頂きたい。大きな鈴やホイッスル、ラジオ等、時にはライター等もすくなく出しや



森車軌道(赤崎西付近)

すい所に通行して頂きたいし、やはり数人で
パーティーを組むほうがよいだろう。
さらに2ヶ所、由良川を渡ると知見谷川が
合流し、川沿いに北へ進めば八ヶ岳への
登山口、八坂に着く。前方の小高い区画は
若狭園で、その跡から北方には若狭の海
が見える。北山最北端の稜線である。八坂の
村はずれに古い石碑があり、若狭越えの剣井
坂は、ここから登り始める。ゆつたりとした



由良川瀑流アイノ谷付近

を滝登するムササビ、モモンガをはじめ、キ
ツネやテン、タヌキ、アナクマズ、夏間に出
会う動物も多い。東北でしか発見されていな
かったクロオオヒグモモリも見つかってい
るし、日本国内で数ヶ所しか確認されて
いないヒミズモグラがいる可能性も残されて
いる。
夏期ではこれまでに33科101種が確認され、
これら群の一の鳥獣保護地とも呼ばれている。

古述に仕落ち葉のククシヨシと構図な樹木の
美しさが調和して、今もハイカーの心を和ま
せてくれる。

八ヶ岳に登れば3000m以上の大規模な若狭の
裾がキラキラと輝き、青葉山の双三峰が印象
的だ。知井坂の若狭側は急峻し、高度化がか
なり進んでいるようだ。若狭越えとは、
里から根菜坂、杉尾坂、御蔵坂、五波坂、知
井坂、柳野坂、横尾越え、尾米越え等、70
0mの区画を、うまい作業者がなれば道が
道が開かれていく。個別に峠越えを紹介して
いきたいが、回数も限られているので又の機
会にコースとして紹介する事として、最後に
美山町の大自然をかかえ込んだ、京都大学古
生動物資料について紹介しよう。

約4200mの演習林のうち2000m以
下、由良川渓谷沿いに原生林に近い状態で残
っている。この大規模な原生林は、京都府内
では最後のものだが、特に、標高が1000m
以上に達しない地域で、ひとつの河川の扇状地
が原生的な自然のまま残されているのは、
西日本でも唯一とされている。

植物は一番が温暖帯から冷温帯下部に位置
するため、太平洋側、日本海側のものが同居
し、例を見ない世かさを誇っている。高木、
低木は合わせて200種、草類は414種、

この中にはキツネノコブシやウサギを捕るクマタカ
やオオタカをはじめ、サシバや「仏法僧」の
鳴き声の主のコノハズク。廻りた大きな口を
あけて、夕方に夕日を飛び回るヨウチア、トン
トントンと音を響かせ水の中の昆虫をついば
むキツツキ、オシドリ、アオシギ、ハギマ
シロ、オオミスズナトリ等の飛鳥も確認され
ている。また溪流にはカワセミ、ヤマセミ、
カワガラス、ミソサザイも棲んでいる。

これら以外の動物では、天然記念物のオオ
サンショウウオ、樹上に吹き出したアワを集
めて卵を生むモリアオガエル、日本産のヘビ
類で最も美しいとされるシロマダラ、ハイカ
ーには注意して頂きたいマムシも極めて多
い。魚類もイワナ、ヤマメ、アブラハヤのほ
か、近畿北部に特産し由良川を西限とする姿
の美しいアジメドジョウなどがある。

演習林の歴史は大正10年4月にさかのぼ
る。当時の京都帝国大学(今京都大)が学術研
究、実習として使用するため、京都府北桑田
郡田知井村の九ヶ字(南、北、中、江和、田
敷、芦生、河内谷、白根、松々連)の具志林
の一帯(約1200m)に約7ヶ年の地上植を設
定したのが始まりで、大正12年に農学部が開
設され、翌年、農学部付属演習林となった。
ともあれ、京都の北山地帯とまで言われたこの

シダ植物は6種が確認された。樹木類もよく
行くと、演習林にはトチノキが林を形づく
り、ブナ林に天然スギを混交しているのが特色
だ。この天然スギは、冬場の深い雪で下部の
枝が地面に押しつけられて根が腐り性質があ
るとされてきたが、近年の研究で、中、下層
の中、小径木の倒伏が主と見られている。
種子植物とシダ植物を見れば、ニッコウキ
スゲ、オオバトスミレ等は日本分布の西限。
広域にわたる温暖度の高い天然林に助けられて
樹の上には、ヒナチドリ、スギラン等の野生
植物が古来の森の深さを証明している。

溪流沿いには、若狭を中心とした近畿北部
にのみ分布しているアシウテンナンショウ、
モミジチャルメルソウ、ナガエノアザミ、カ
ガノアザミが育っている。これ以外にも日本
海側の深山の深谷に分布が限られているはず
のチヨウジギク、クワキンカ、クロバナヒ
キオコシ、アキギリ、タイミンガサ、オオハ
ナウド等があらここに現れる。

一穴、豊かな自然林に恵まれて動物の種類
も多様な、大規模のものではそそり立つ岩場に
白冠する天然記念物のニホンカモシカをはじめ
め、ツキノワグマが代表的。広い行動範囲を
もつシカ、イノシシ、黒頭でエサを取りなが
ら移動するサル等もいる。それに夜のこずえ

森をいつまでも残してほしいものである。生
生の森を本号にはコースガイドとして紹介し
ていないが、今の産生の深谷沿いにはアキギ
リの紫色の花やチヨウジギクの黄色い花が秋
の訪れを告げている。

この秋は、少し早出をして新しい北山の魅
力にふれてみてはいかがだろうか。
(調査 平成4年4月6日)

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

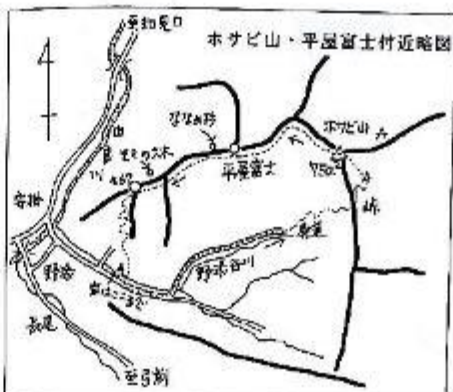
エリア別徹底研究

美山町から若丹国境の山①

美山一の魔峰

ホサビ山と平屋富士

京都北山



丹波長尾から野添の集落を抜け、林道野添上山線へ入ると左へ林道今山線を分岐し、さらにこの先で左へ下山線を分岐する。下山線へ入り雑林帯をしばらく行くと右側に墨根小屋があり、対岸の岩に小さな祠がある。ここから20分先の右側雑林の中にある道が下山路となる。林道の終点で谷は二分し、右の谷へ入ると20分先、谷の中央に大きな杉があり、左の山腹へ登る道を発見する。ジクザクの急登で、途中で道は消滅するが道の終面をよじ登ると麓道のユリ道を発見できる。この谷ま

道はホサビ山南麓の鞍部に達している。南麓の東側から廻り込むと鞍部への道があり、この道は北へ入り、左の小高いピークがホサビ山の山頂である。山名の由来は定かではないが、開成山であるという意味で、ホサビが開成だと思われる。北西の尾根を下ると杉林があり、笹の下生えする灌木帯の二つめのピークで主稜線を北と西に分け、南へ下るよう西の主稜に取りつく。鞍部を下ると美しい灌木帯に入る。明瞭な道はやせ根根に乗り、雑木の細い鞍部に着く。モミやニメツガの点在する次のピークからは由良川沿いの集落が見える。やがて杉林を分けるピークを過ぎると二原や中坪の集落が周囲に見え、次のピークが平屋富士

の山頂である。山頂には倒れた杉から坂を上方へ進ばず「ななめすぎ」があらただけで富士の名からは想像できなほど崩れた山であるが、この間寂びと繊細な樹木から受ける印象は、美山一の魔峰だと私は思う。下山は、西へ主稜を下り、小突を越えると尾根の中央にモミの大木がある。種やかな灌木帯を進むと、やがて尾根の分岐に着き、南へ延びる支稜の裏側を下る。緩やかな谷で、下生えも少なくモミの木が点在する付城。左側の大岩の横を通り過ぎると雑林帯へ入る。杉林を抜けると林道下山線に出合う。墨根小屋の橋を通り、朝の道を戻ればよい。

- 美山町 077117 (5) 02118
- 美山町大字野添 (マイカー) 林道下山線分岐 (20分) 林道終点 (1時間) ホサビ山南麓鞍部 (40分) ホサビ山 (1時間50分) 平屋富士 (1時間) 林道野添下山線出合 (地形図) 2方1千1島・中
- 信濃川
- いそべ 077117 (5) 02118
- 美山町大字野添
- 美山町 077117 (5) 02275
- 美山町大字長尾

エリア別徹底研究

美山町から若丹国境の山②

若丹国境を望む

白尾山

京都北山



津ノ本谷川に沿って林道に入り、猪血谷林道を左へやり過ぎると15分程で林道は尽き、丸木橋を渡り、少し進ると谷は二分し、左の谷へ入る。植林の中、丸木橋を渡ると谷は三分し、真ん中の谷へ入る。やがて左岸の谷まは明る伐採地に出る。源流から右側雑林帯のつらな折れを登ると、美しい灌木帯に変わり、笹が目立つとまもなく津ノ本谷川に着く。北方に柳野川流域のP618・8が見える。白尾山へは南西の灌木帯の尾根に取りつく。赤テープ等の目印がある。

峠から300m程で植林705に着き、再びピークを二つ過ぎると、松の風化木が点在する付近から緩やかな尾根道となる。西側の松の雑林帯を過ぎ、小突を二つ越せば右側に立ち枯れの白い風化木を見る。笹の急斜面を登り切れば白尾山748・5の山頂である。尾根はすぐれ、北方には若丹国境の種やかな尾根がひときり見え、又、登ってきたいくつものピークが波打く。その向こうに鈴ヶ崎の尖塔が印象的だ。南方の尾根の状況は灌木に遮られ全く見えない。下山は、南西尾根を登る。山頂から300m程は道の裾野は全くなく、そのまま下ると支稜の分岐で西の尾根へ迷い込んでしまうので注意しながら南の短い尾根を取る。大内の集落が周囲に見

えるので絶えず前方を見て下れば、やがて踏み跡らしき痕跡が笹の茂る灌木帯の裏側に発見できる。西稜分岐から1500m程下ると主稜から離れ、南へ下る幅10m程の古道に出合ふ。かなり道は荒れているが、つらな折れで一気に背谷左岸の杉林まで下りてしまふ。背谷沿いに右岸、左岸と下ると高びて古びた炭焼釜の跡を見る。流れを渡り、背谷右岸と合流し、広い林道に出て、由良川に架かる橋を渡れば大内の集落に出る。

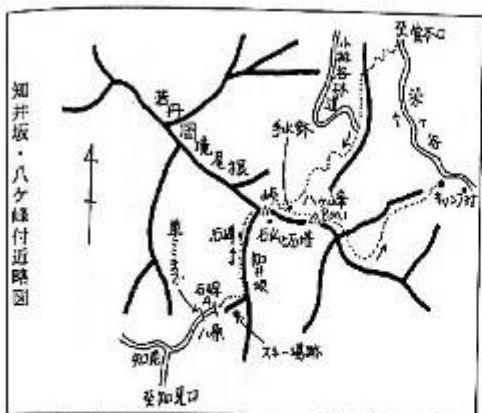
- マイカーを津ノ本谷の入口へ止めれば、大内から津ノ本谷まで歩くが、「大内」から時刻が合えば、「西」まで乗車可能バスに乗車すれば南道を通りやすくなる。朝、大内のバス停をマイカーで通過する時に時刻を確認しておくのも一案。
- (北山宿) ハコースタイム 南 15分 津ノ本谷・猪血谷出合 (1時間) 津ノ本谷峠 (1時間40分) 白尾山 (1時間20分) 背谷出合 (30分) 大内 (地形図) 2方1千1島
- (信濃川)
- 梅若 屋 077117 (7) 01545
- 美山町大字南
- もりしげ 077117 (5) 10886
- 勘兵衛 077117 (5) 02004
- 美山町大字内久保

美山町から若丹国境の山③

海の見える展望台

知井坂と八ヶ峰

京都北山



マイカーは登山口である八原まで入れ、民家最奥の笠倉橋を渡ると南無妙法蓮華經の石碑があり、その横から知井坂を登り始める。少し登ると霧地へ行く道が直進するが、左の山腹へ登るジグザグ道をとる。雑木林と植林が混在する緩やかな登りで、まもなく右側の開けた水場に着く。昔は、ここに茶店でもあったような雲断気の場所である。やがて大木の茂る所を過ぎると和泉が開け、スキー場跡に着く。刷れた小屋にはスキー板などが朽ちて散らしている。この上部でクヌギ林に入り、南の支尾根に乗るとオウシ谷側は伐採されているため、明るく南方の展望がすぐれている。ここにも南無妙法蓮華經の石碑が立てられている。さて伐採地を後に今度は尾根を乗り越えて左側に移る。知井坂の峠は、この尾根に出た地点であるが、若狭側が平坦で、尾根を斜めに越すので、どこが峠だか気づかない。峠から10分程、若狭側へ行った左側の道に分けて登ると石仏と石塔が並んでいる。この石塔は「知三村誌」によると「国境に石佛あり、新田義貞の建設せしものなり。その真谷を確かむる記録なきを惜しむ」とある。この石塔は宝篋印塔の頂部の相輪で、高さ約70cmの風落あるものである。これが南北朝時代至徳2年(約610年)の建立であると伝



知井坂の石塔と石仏

えられ北山最古の石塔である。知井坂の命名は、峠越えの険しきゆえ血涙を流すほど苦しんだため「血坂」と呼ばれるようになったという。もう一説は、その昔、この峠を境に激しい土地争いの戦いがあり、倒れた兵士の血でこの坂は赤く染まった。従って「血坂」と命名されたとも言われている。さて、八ヶ峰へと登る。若狭側の道は笹の茂る平道を道で、途中から尾根に乗り、左へ道を急峻するが、これは常木へ下る知井坂で八ヶ峰へはそのまま園地の巡視路を東へ登る。鉄塔下を過ぎると次のピークで巡視路は右へ分岐するが、そのまま尾根を直登する。笹を分けて登り切ると八ヶ峰の頂上で、展望は360度開け、八ヶ峰が見渡せるところから八ヶ峰と命名された。

さて、園地を南東へ下る。新緑や晩秋の頃は実に美しい尾根である。二つのピークを越え、急坂の横道を下ると広い鞍部で、左側の染ヶ谷へ下る道を分岐する。山腹の巻き道で明るく爽快な印象を受ける。笹の台地を過ぎ、支尾根のつづら折れを下ると、左側の開けた伐採地からは北方の展望がよい。やがて薄暗い杉林を抜けると染ヶ谷のキャンプ村に着く。テント持参で一泊し、若狭の常木から再び知井坂を通行するのよいだろう。

日廻りの場合は、染ヶ谷川沿いに少し下って、キャンプ村から30分程の地点(四つ目の橋)の上空に送電線の走る所がある。その左側の小さな尾根に登る園地の巡視路がある。最初は急なつづら折れで一汗かくが、15分も登れば第一鉄塔に着く。さらに登ると尾根に乗り、知井坂の古道に出会う。ここから峠



染ヶ谷道より三國峠を望む

までは緩やかな道で、貫録あふ京道の感触は登りの疲れをいやしてくる。左をとり、湖水の尾根を20分も歩くと第二鉄塔に着く。さらに第三鉄塔を過ぎると、再び湖水の尾根を登る。すくなく小松谷林道の終点になる。林道終点は広場になっており休憩するには良い場所だ。林道は、もう少し南の開けた高尾状の所まで入っている。今までは変わって、杉の植林帯へ入る。周囲は暗く、尾根の西側を渡って巻いて第四鉄塔に着く。再び巻き道を北側の展望を楽しみながら進むと第五鉄塔に着く。ここから少し登った左側に湧き水があり、小さな苔むした手水鉢が置かれている。享和2年の文字が読める。長い年月、知井坂を往来する旅人にとって貴重な水場であったことだろう。200年を過ぎた現在も水を満々とたたえている。さらに緩やかな道を辿ると、左側へ切り返し、園地を登ってしまふ。昔の知井坂は、切り返す地点から尾根の北側(現在園地)を巻いて峠まで通じていたのである。峠からは笹階を八原まで逆行すればよい。(北川肇) ハコスタイムV八原(1時間)知井坂(25分)八ヶ峰(25分)染ヶ谷下平地(10分)40分)染ヶ谷キャンプ村(30分)園地巡視路登り口(1時間20分)小松谷林道終点(1時間)

知井坂峠(50分)八原

地形図 2万5千1中・久坂

(信濃版)

八ヶ峰社

077-77(7) 06607

美山町大字知見

茶 通信販売

くつろぎとやすらぎのティタイムには
やっぱりお茶が ティパックが便利です。
山へお持ちください。ご家庭でもどうぞ。

1. 煎茶	3g	全品1袋単位で販売	
2. はうじ茶	3g	どれも1000入	送料450円
3. 玄米茶	4g	100g 250g 500g 1000g	送料300円
4. ウーロン茶	4g	200g 500g 1000g	送料450円

●商品は1週間以内の送料は無料です。
●代金は郵便振替(振替先: 00110)またはクレジットでお支払いください。
●サービスセンターの受付時間: 9時～18時(土日祝日を除く)です。
●送料は別途ティパックがご利用の場合は、こちらをご覧ください。

茶 専門店 **いっしょに** **お茶**

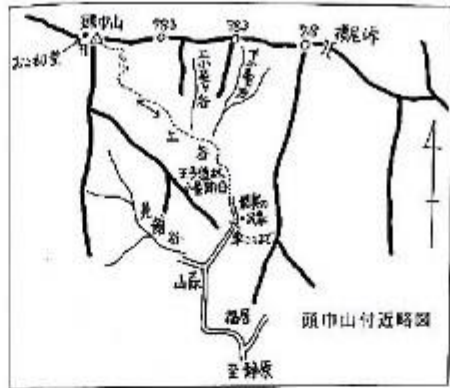
TEL: 077-77-06607 FAX: 077-77-06607

美山町から若丹国境の山④

古い信仰を秘めた山

頭巾山

京都北山



頭巾山付近略図

この山は、若丹国境尾根の西端に位置する傾斜の山で、ピークから北には尾根の尾根、南西には長老ヶ岳への尾根と、東へ続く長大な若丹国境尾根を分ける中心ピークがこの山である。

丹波郡から北へ少し入ると最奥の民家が右側杉林の奥に見えてくる。ここから上谷へはなおも林道が突へ延びている。民家の横には古い若狭越(檜尾越)の石橋があり、檜尾峠へは、ここより支那根に取り付くが流道花がかなり進んでいる。コースは上谷林道を奥へ進むと右側左岸に頭巾山への道が発見できる。少し歩くと岩の点在する地点に着く。

対岸へ渡り杉林を行くと小さな祠が築られた大岩の左側を巻いて登る。さらに200mほど三平太岩林の崩れた小屋の横を通る。所々に美しい流道が岩間を舞い、しばらく行くと左側左岸から山頂のナメタシになって、小さな谷が合流する。下小屋ヶ谷で上流部にも小滝が連続する。さらに150mほど登ると谷は二分し、その中央に巨岩を見る。流は右の右側を巻くが、途中の丸木橋が崩れているので注意。本流の滝群を降り巨岩を右側から登る。左の本流へ入る。右の支流は上小屋ヶ谷で、ここから先は岩が続き、300mほど登ると再び前方に巨岩が現れる。左側からロープを伝

山頂付近から若丹国境尾根を望む



って急な岩の斜面を登る。ここが上谷最大の崖頂であろう。岩の上部で急に傾斜が削れる。ここから奥は谷も緩やかになり、杉木立ちの中を歩くと、やがては道は谷から離れ、道標に従って左側の山腹を登る。最初は杉木立ちの中のジグザク道で、徐々に岩の斜面となり、流木帯付近から振り返れば、白尾山方面の山々が、ぐんとせり上がってくる。山頂はまだ見えないが国境線手前の監視塔を登り切る

と、北西に白い風化木を点々と配した小高い山頂が見える。ここで横尾峠からの道と合流し、山頂まで15分の行程である。北方には、木の間越しに小浜湖が見え、頂上の手前50mの地点に老杉の風化木がある。その根元に高さ40cmほどの石仏が風雪に黒ずんでいる。立ち枯れの風化木となってしまう老杉も昔は大きな姿を伸ばし、縁々と放つていたに違いない。根元の石仏に手を合わせ、僧侶は祈った。今の、寂寥とした情景に昔を想ふことができるだろうか。



頭巾山山頂の祠と石燈籠

頭巾山山頂には、樺坂さんを祀る祠と一対の石燈籠、そして10人くらい泊まれる小屋、おこもり堂がある。頭巾山という山名は、その稜線が尖って、僧侶のかぶる頭巾に似ているところから名付けられたと聞かれる。この山を美山町市街から遠く望むと、山頂の光明寺から遠く望むと、山頂の好の山に好の山と云うなすける。また、他の山とは違い、何の嵐も受け

てきた山で、山頂にある古和木庵(山寮)では昔葉樹現と呼ぶが、それで、平安時代以前から水産の神として頂上に祠を建て、祠の前の祈願に周囲の村人が登った山である。この山の歴史は古く、次のような伝説がある。ある僧侶が鶴ヶ岡の山頂より頭巾山に登ろうとした。その白衣が見るから長途の渡れを現わして河れていたので、山頂の土民の女がこれを流川で洗ってあげた。僧は大切に喜んで山に登ったが、ついに下山しなかった。土民たちが集まってこれを祭ったのが、すなわち古和木庵現で、この故事により本来女人禁制の本山(山頂)の女子だけは入山を許され、もし、折雨のために女子が登山するときは、山頂村に一泊して一日その住民となつて登るのを慣わしとした。昔の参拝者は、重の小石を拾って山上に運び、初めに積む慣わしを固く守った。今でも頂上の祠の前にくさんの竹が積まれているのがそれ、大きければ大きいほどその御利益は大きいという。そして昔は、山頂村近の参道(上谷本側)まで御祭の日には露店が出たというから、その信仰の厚さは計り知れないものがある。

相路は経路を戻るのが無難だろう。(北山哲人)



暗峠に菊の香を偲んで

松永恵一

菊の香

時は元禄7年(1699)也。生駒松尾重直は、大坂から豊前へ渡つて、唐船の往來や奥国の百景を聞きたいといふ奥國情緒に心ひかれて、**「旅風抄」序文**による、8月5日の早朝、大坂へ向かう為には故郷伊賀上野を立つた。同行したのは、支考・性然・次郎兵衛と兄の子右衛門。上野から大津川に渡つて西へ進み、笠置から加茂までは河村に乗る。芭蕉は殊の外疲れ、徳沢の池のほとりの宿に着くと這つて入り、宵の闇まどろんでゐる。「更鼓」や「奥の細道」当時の芭蕉は一日十里あまり歩いているが、この旅ではひどく疲老が目立つ。が、さすがに芭蕉と思われるのは、どんなに疲れていても芸術的精神を忘れないこと。その夜も月と鹿に風情を偲

れ、徳沢の池の畔に吟行する。
 びいと啼く風、かなし夜の闇
 9日、奈良で重陽の節句を迫える。この節句を奈良で迎えようと日取りを言わせていた。菊の香や奈良には昔は遠
 静かに落ち着いた奈良の町にはちよつと重陽のこととて、菊が今を感りて咲きおり、寺々には御いたちが昔ながらの尊い姿でおいでになる。
 奈良から大坂へのコースは、奈良からまっすぐ西に向かい生駒山頂の南西にある暗峠を越え、牧間に下り、さらに西に河内野を横切り大坂に入る時、**「旅風抄」**、大坂と奈良を隔絶距離を絶え去つた。
 菊の香にうがりが登る節句かな 芭蕉
 あたかも重陽の佳節の朝まだき、さわやかに

徳ヶ根神社「河内名所図会」



な菊の香を慕いつつ、ほの暗い山麓を踏み分けて、名も暗がりの峠を登つたことである。
 この日は、大坂の生玉の辺り(天王寺区生玉町)で日が暮れた。大坂の門人之邊と清堂の鐘歌を仲敷するため、高津の宮の酒宴亭を宿とした。
 菊に出て奈良と節は昔月夜 芭蕉
 菊歌を重陽の朝、古都奈良を出て、難波の旧都に着いた時は日もすでに暮れ、空には9日の宵の半月が美しく光っていた。

生駒

和銅3年(710)、難波平城に遷されてからは、奈良、難波の往復に生駒越えが重視される。「和銅廿五年(725)日、河内国高安の峠を断して、初めて高見峯、及び大徳院春日峠を置いた。それで立城(立城)、「(立城を)通じさせた」と「続日本紀」は伝える。峠とは嶺のこととて、東西の交通しがよく、生駒山頂の南麓上に烽火台が置かれ、難波と平城と連絡をとつたのである。
 夕されば、ひぐらし来鳴く
 生駒山、越えてぞ我が来る
 妹が目を欲り
 (「万葉集」巻十五、3559) 森岡清
 夕方になると、ひぐらしが鳴き始めるのも寂しい生駒山、その山を越えて私は大和へと急いでいる。ただもう妻の顔が見えないう。
 旅に逢はず、あらばすべなみ
 岩根踏む、生駒の山を
 越えんぞ我が来る
 右の「百首」は、美しく私に語りかけて思ひを
 (「万葉集」巻十五、3560) 森岡清
 妻に逢わずにいるとどうにもやるせなく、(「ついでに」)した岩を踏みしめる生駒の山なのに、そこを越えて私は大和へと急いでいる。

「万葉集」

巻十五には、新羅に渡わされた人たちが別れを惜しんで、また海上で歌んだという百四十五首の歌が採られている。
 天平8年(736)、難波津で粟船準備などをすの間、暇を盛んで、大急ぎで、平城の家へ帰っていったのだ。彼らはいとしい妻や恋人の顔見なさに、ただひたすら廣進し、神武天皇が兵隊と戦い敗れた葦原のよさをそびえる生駒の山を望望し、一気に生駒谷を駆け下り、榎木峠を越えた。
 海路の苦難は大変なものであった。死を覚悟した彼らのひたむきな気概、かなしみ、やるせなさがひしひしと感じられる。
 暗峠
 暗峠奈良街道(国道308号線)は、大坂と奈良を取道距離で結ぶ交通路。生駒山の南約1・6kmにあたる暗峠を越える時、暗峠は標高455・1m。峠で西は大坂府東大坂市東豊浦町、東は奈良県平野町西畑に分かれる。暗峠という名の由来については、さまざまの女説がある。樹木がうつそうと成り、星をお暗いところから、暗峠と名付けられたとか、馬で登る旅人や荷物運ぶ人々が、この地で「鞍背り」「被袋入」したのを暗峠と呼ぶようになったとか、峠の形が馬の鞍のようだから

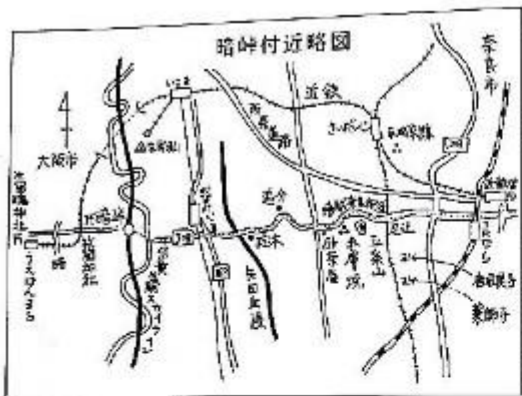
とか、その名にまつわるいわれは多い。そして、神功皇后が鶴の早業きを夜明けととり違えて生駒を出発し、峠に上った時、まだ暗闇であったからとか、弓前の道徳が和氣清麻呂をこの地で暗殺しようとしたが、にわかには信用が難い、一面真っ暗になって果たせなかつた、などの伝説も残る。享和元年(1810)刊の「河内名所図会」は、「生駒の山脈総て、小原山といふ故に、徳ヶ根の名あり」と記し、徳ヶ根からくぐらがり、になったと説明する。
 暗峠道は、平城京と難波を結ぶ直線コースとして古くから利用され、近世には、大坂より大和、伊勢参りの道として盛んに利用され賑わった。「河内名所図会」も、「峠村に茶店、旅者多し」と記し、人の往來の盛んな当時の様子をえがく。江戸時代から明治にかけて河内屋・油屋などの兵屋や旅館が軒を連ね、人通りが多かったという名残りを、関根岩と花崗岩の自然石を敷きつめた石畳の道と大津宮夜夜浴に決す。
 大正3年に大坂電気軌道(近鉄奈良線)が運転を開始して、すっかり忘れられた暗峠道だが、昨今の峠は生駒山認定や府民の森ハイキングコースとして、ハイカーに親しまれている。



暗峠

コース概観

今回は、松尾芭蕉の終焉の旅となった奈良と大阪を直結する「暗峠コース」の暗峠奈良街道を歩く。昔はみな線の旅だった。乗物の差違とともに、点の旅へと変化した。時間の短縮を得た反面失ったものも多い。歩いてみて、はじめてわかることもある。歩いている旅の原点在ここにあり。



暗峠が見られる。西畑の村のはずれに石の地蔵とともに「藤行く芭蕉」と刻まれた石碑が残る。汗をかき、息をきらした心を和ませてくれる。最後の急坂を登りつめ、暗峠生駒スカイラインのガードをくぐると、そこは石畳の残る暗峠。奈良側の遺蹟はすばらしい。矢山丘陵、市街地の背後の春日山など、大和盆地東方の山々が眼下にひろがる。石畳の道に寝

近鉄奈良駅からすぐの奈良の池から歩き始めよう。カラーブロックの美しい三条通りを西へ。この道は昔日本社を築きまっすく西に至る平城京の三条大路だった。繁華通りを行くと「奈良駅」。高さ33センチの電柱が二基並んで建っている。しばらく行くと右手に奈良寺が見える。悲劇の宰相長屋王の邸宅跡だ。ついで積水化学の工場がある。平城京の朱雀大路、幅90メートルだ。

尼ヶ辻の交差点に地蔵堂があり、鎌倉時代の文永2年(1265)銘の地蔵菩薩立像が安置されている。秋篠川に架かる橋を渡る。右、阪奈街道と表示ができる。左の旧道をると近鉄橋筋(尼ヶ辻)駅。この辺りはまだ田圃風景が残っていて、のんびりと心地良い風が吹いている。こんもりとした森が前方後円墳の埴田山(天白塚)と呼ぶ。森に浮かぶ小島は、田圃開墾の遺跡。天白の命を授け、常世国(蓬莱山)へ非時の音楽(舞)を求めに出国し、十年後その夫を手に入れた民衆と、天皇はすでに亡くなっていて、彼は鶴舞して死んでしまった」と「日本書紀」は伝える。病院・学校の迎い並ぶ道のほとりの道を登ると奈良から五条山に出る。赤っぽい陶土を使うことから名のついた赤筒窯の窯元が目を構え、茶陶器が多く焼かれる。

道は砂土で、暗峠川に架かる下見橋を渡ると登りになる。ぐんぐん登ると近路村陣井家の住宅と笠石をのせた道しるべが残る。ここから奈良盆地がきれいに見わたせる。さらに登りつめると榎木峠。榎木峠の道をしぼく下ると右前方に生駒山が立ちあはだかるように見えてくる。墨島峠を右に下った鞍部暗峠が見える。ゆるやかな坂を下ると小瀬町。近鉄生駒線の南生駒駅がある。

暗峠川に架かる小瀬橋を渡る。南生駒の標高110メートル。暗峠との差350メートル。距離2.5キロを登る。相当にきつい。息がきれてきた。先ほどから膝がグラグラと大笑いしている。失礼だが、もうおばさんと言えない年齢の女性が下りて来る。「まだ、ハアハア、上まったいお、ゼエゼエありますか?」「まだ少しありますよ」「ここりと笑って、しっかりとした足取りで下りていく。「日頃トレーニングなんてしてなくても大丈夫だよ」などと聞いていた自分を、ほんの少しだけ後悔した。子供たちが歓声をあげながら走り下りていく。奈良・藤尾・西畑と進む道筋には、旅人の往來の安全を祈って建てられた数多くの地蔵

そへって、澄んだ空と白い雲を眺めていると、大笑いしている隣と一緒に、爽快な笑いが腹の底からわきあがってきた。

暗峠から急坂を下った所に大師堂がある。この地に湧き出る清水は旅人の喉をうるおした。別名「弘法の水」と呼ばれ、最近の水プームで、この水を求めて来る人々が昼後あとをたない。この草内に残る笠筒窯は鎌倉時代の弘安7年(1284)の銘が確認されている。

枚岡への急な下り坂は、直線に近い最短コースを通る。滑り止めの為、水玉模様を描いたようなコンクリートの坂道である。道すじには進行場を中心とした民間信仰が息づく。枚岡レクリエーションハウスを右手に見ると、そこはもう枚岡公園。右側の休憩所の前に、明治22年に地元の前句グループ六組社によって建てられた芭蕉の「菊の香」の句碑がある。枚岡神社を左に見て旧道を下ると右手に日蓮宗の成成院がある。境内に入って右側、芭蕉翁の百回忌にあたる明治11年(1776)に建立の「芭蕉の香」の句碑がある。枚岡神社は東大坂市古井町に鎮座する。大黒田様、比叡神、経路神、武蔵神の四柱の神を祀る。「元春日枚岡大社」と呼ばれるように、奈良の春日大社は、この枚岡社の

神像を勧請し奈良時代に祀られた神社である。このことより中尾氏の木藪地が枚岡の地にあつたと考えられる。

東大野街道と交差する要衝の地には、大坂夏の陣で徳川家康の本陣となった、中村代官屋敷跡が枚岡中央公園として残る。また、信濃の交差点には弘法大師石像と通じるべが残る。外環状線を越え、しばらく行くと花園サンピの西側、旧吉田川の堤防上にある吉田墓地のほぼ中央部に芭蕉の供養塚がある。自墓石の中央に大きく芭蕉と刻まれている。この塚も地元の俳句グループ六組社に隣接したものと考へたい。

中央環状線をすぎると27日の曇り空の下、上本町行きのバスに出発しようになる。旧道を歩いてその誘惑から逃れるようにする。長距離を歩いた心地よさがじわっとこみあげてきた。
Aコースタイム
奈良を奈良池(1時間20分) 近鉄尼ヶ辻駅(1時間) 遠分(1時間) 近鉄南生駒駅(1時間30分) 暗峠(1時間) 枚岡神社(3時間) 近鉄上本町駅
費用) 近鉄上本町駅→奈良駅 4800円
地図) 2万5千1 奈良・大和郡山
生駒山・信貴山・大和東部郡

特選コースガイド①

根来坂峠から

ひやくりがだけ
百里ヶ岳
若狭

初級コース(★)
出口 憲次

国土地理院一等三角点の本点、古名は木地山、山名は百里ヶ岳、標高931m。

数年前、地元朽木村によって登山路が整備され、中高年婦女でも楽々と登山できるようになったので、小入谷からのコースを紹介しよう。

小入谷の大倉谷林道(舗装)とシチクレ谷林道の分岐、左のコンクリート大橋を渡り、シチクレ林道の杉林の中を進む。再びコンクリート大橋を渡ると、左隣木林山側に「根来坂峠百里ヶ岳・朽木村」の道標が建つ。ここが針畑川口の百里ヶ岳への登山口。P880から南に延びる支尾根の筋、この標高が470m。平成3年春に朽木山行会の手によってこの支尾根の両側にかぶさる灌木や笹が道

幅1/2半程に刈りとりられ、四百年來の古道が地肌も見えらるほどに整備された。

最初シチクレ谷登山口で、シチクレ谷側の腹道に乗る。谷を隔ててシチクレ峠右のP805から延びる支尾根を平行に見ながら高度を上げる。道右側は植林幼樹で境界が明ける。30分程で草付き広場に出る。地蔵さんをおぼろおぼろと見ると、これが筑前守、平安朝からあると聞く。祠は祠まで新しく建て直されている。これよりP762の尾に進むとテシマザサが出てくる。以前はブッシュの尾根道も今は判然としてP762を乗り越し、大倉谷側をP871の尾根の筋に沿って歩く。ここもよく荒れりされた道で、若狭側に入ると飯茶山、背山も遠望できる。又シチクレ谷登山口で根来坂峠の広場に暫く。

時には大小鹿ほどの地蔵祠があり、ブナの大樹の根に「根来へ何分の小浜山の会の小札があつて、昨から判然としな下り道がのびている。P871の標高に、大乗妙興一行一宇塔」と彫られた古い石碑があり右にひびいている。道分れには朽木村の「百里ヶ岳 根来 へ」と立派な道標が建てられ、ここもかつてはP871からP880へかけてネマガリダケのブッシュ尾根だったが、すっかり刈りとりられ若狭大谷側を見つづき難く感ずることが出来る。

P880から樹

の間に登り、百里ヶ岳の雄峰が初めて現われる。

P762から急降して大倉谷の分岐を左に見越してシチクレ峠への分かれの小突尾へ出る。ここにも「小入谷百里ヶ岳」への道標がある。針畑川

口、小入谷峠口への巡回コースの分岐点で本コースの下山コースとなる分岐だ。

これから百里ヶ岳へは前山と小突尾を越え、ブナの大樹の間を進む。このブナ林は野放しのブナ林、黒川峠側のブナ林と同じ系列の日本橋側のブナ林である。林間から日本橋若狭側も見え、小浜市の一部と根来藩も見える。鞍部から鉄線登りで百里ヶ岳に飛び出す。

山頂には小浜山の会が建てた大きな看板に記録帳の小箱が設置してある。灌木やネマガリ笹のため展望はない。昔は百里西方を見越せたので、「百里ヶ岳」と名付けられたとのこと。



と。現在はヤブ山百里ヶ岳。北にのびる木地山峠への後継もブッシュで深い道、古いガイド誌によると、このコースを朽木村の大倉谷ンパソウ谷から百里ヶ岳へとあるが、上ほど物好きでなければ取らない強いヤブ道である。頂上広場のブナの木に展望用のロープがかけられてあり、これを登ると平塚小浜の多田ヶ岳、久須夜ヶ岳、坊ヶ岳(金剛山)、大御影山、比良武蔵ヶ岳、若生の三國峠から続く若狭国境の山々が見られるが自然環境を寛

裕すること。

下山路はシチクレ峠からP805尾根道コースを小入谷峠へ取る。このコースもよく整備された。山頂から元のシチクレ峠への分岐まで同じ道を戻り、道標から左へシチクレ峠まで急降下だが、笹刈りされて下りやすい道だ。この峠部から百里ヶ岳の姿が一番格好の良い撮影場所だ。シチクレ峠から小屋への道が2万5千の地図に記載されているがこれも感化、ブッシュの深い道、ミニミ谷林道終点まではヤブ西のアルパイトを通いられる。シチクレ谷側も植林後10年ほど草が以前よりも生え、尾根道も隠れ隠れ化している。

標高780mの峠からP805への登り道も笹刈りされ葉にビークを感ず。前山に南ノ谷を隔てて地蔵谷峠(ア792m)の道標が植林に見え、魅力を感じる山だ。小入谷・能家緑野道の峠に下る尾根道はシチクレ谷側は10年生々々らしいの杉植林が繁り下草刈りの手入れもされず谷も見えない。左側はミズナラ、リコウアの雑木林の切り開き道。小ビークを二つほど踏んで標高500mの峠。登山口の右板が立つ四道に下り歩く。このルートを開いた朽木山行会の古野私さんらはこの道を「白里若狭道」と名付けている。

小入谷登山口に広い駐車場もできたので、関西から口帰りするならマイカーが便利。紹介したコースの逆コースをとってもタイムは

ほぼ同じ。途中水場がないので出発前に桶水のこと。登山時期は新緑5月か紅葉の10月をお勧めする。

福井県小浜側からも長く踏まれた根来坂峠、大谷越えのコースも若狭、福井方面からの登山路としてよく利用されている。

(平成3年10月20日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(30分) 雄尾地蔵(30分) P762乗り越し(30分) 根来坂峠(30分) 大倉谷分岐(30分) シチクレ峠分岐(30分) 百里ヶ岳(40分) シチクレ峠(20分) P805(1時間) 小入谷峠登山口(全行程約10時間)

▲地形図▼方眼1:10,000

▲交通▼JR湖西線安曇川駅より江若バスの細川行きに乗り、市場で小入谷行きに乗り換え

▲参考▼

「朽木山行会」1989年(平成元年)3月に発行、全冊数30名券、朽木村の山々の登山道の新設や道標の設置、昔の峠道の復元などに力を入れていた。本年6月ナカニシヤ出版から「近江朽木の山」を出版、よきガイドになる」と通称します。(定価2,800円)

会長・中野弘さん ☎07440(38)2019

法隆寺から

矢田丘陵を歩く

奈良

初級コース(★)
濱田啓司

生駒山脈の東にはほぼ平行して矢田丘陵が南北に延びている。生駒山脈と矢田丘陵との間には香田川が南に流れ、近鉄生駒線が生駒から王寺に通じる。矢田丘陵の東には高尾川が流れ、その東には奈良盆地が広がる。

矢田丘陵は奈良県立矢田自然公園に指定され、近郊には珍しく自然が残り、ハイキングコースも多く、道標も整備されて歩きやすいハイキングが楽しめる所だ。

JR大和路線の法隆寺駅で下車、法隆寺へ向かう。徒歩15分位だ。朝の法隆寺の境内は殆ど人も居ず静まり返っていた。薄々しい気持ちで山門をくぐる。伽藍の前で手を合わせ、東大門を出た。

すぐ左折してお寺の堀に沿って北へ向かう。

う。大きな溜池を右に廻って上がり、雲園の前を進むとゴルフ場突き当たる。池の横を通ってゴルフ場突き抜けた所で休憩。ここまで来ると汗が出て来た。薄着になって山歩き。ここから山道の登りになる。而も山道から雑木が生い茂り、谷のように浸み込まれた道を登る。木の間越しにゴルフ場が広がり、その向こうに町が見える。雑木林の道は爪先上がりでやがて松尾山の山門に着いた。

大きな提灯が釣ってある。急な石の階段を登って松尾山におまいりした。この寺は厄除祈願の名列で「まつのおきん」として広く人に知られる。赤い三重の塔が静かな谷間に映えて荘厳な雰囲気漂っていた。境内からは大和盆地がわずかに見えていた。

松尾寺を出て頂上に向かう。北に山門を抜けて、駐車場から進道の急坂を登ると車止の麓があった。松尾山頂上へ315・4mには三角点もあり、N10Kアンテナのアンテナが立っている。わずかに東の方が削れているが木が繁って目障らしは良くない。

階段状の山道を緩歩路に下って尾根筋を北に向かう。すぐ左(西)に松尾屋敷の湧き水があった。「食中毒物などがある」と聞いたので行って見たが何とこの事はなかった。更に北に向かっていると同見展望所に出た。ここ

松尾山



は矢田丘陵唯一の展望所で、大和平野が一望だ。若草山や大仏殿の屋根もかすかに見えている。南に大和三山が霞の中に見える。東の天理の向こうに名阪国道も見えている。しばらく麓道を歩くと、先を急ぐ。

矢田寺に下る道を右に見て真っ直ぐに進む。松や杉の混じった林に、登り下りの少ない道が続く。木の間隙から奈良の街も見えてくる。やがて細い山道に入った。両側に池が現われ、しばらく行くと「弘法の井戸」に着いた。ここは尾根筋に出る水で、いつも冷たい水が湧き出て出ている。この分岐には休憩所もある。ここを東に下ると矢田寺に向かう。分岐を左に取って池の端を通り、矢田村から杉林の中を切り、この付近に矢田山の展望高地点(340m)があるとのこと。道は尾根筋の西側に入った。杉林の間から生駒山がわずかに見え隠れしている。もう子供の森は近



い。しばらく行くと左に湖の木村に直落する道が分岐する。下って西にまわり込むと子供の森の上に出た。「所員の森」と呼ばれる植え込みを過ぎると、子供の森の多生の谷が広がる。芝生の広場で一服しよう。春や秋の行楽シーズンは人で一杯だ。

西にとり南生駒駅に出ることにした。子供の森の駐車場を出ると降車した車が積み上げられ、道まであふれて感じが悪い。森の中の狭い舗道を西に進む。この登り下りはかなりきつい。登り切った所が松の木村だ。松の木大館におまいりをして一息入れた。

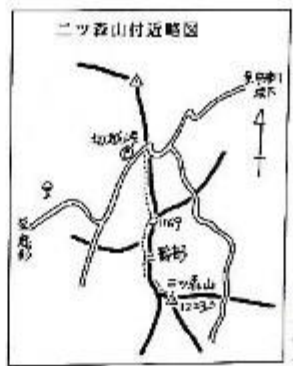
△(コースタイム)▽
法隆寺(20分) ゴルフ場入り口(25分) 松尾山(15分) 松尾山頂(15分) 同見展望所(20分) 弘法の井戸(35分) 子供の森・神池(20分) 神の木村(30分) 南生駒駅
地形図 2万5千 信濃山
※マイカーで行くなら西名阪の法隆寺インターで降りて法隆寺へ。止門の南大門のすぐ前の左側に無料の駐車場がある。帰路は子供の森の神池から北村を通り「横山口」に出るか、大和民俗公園経由で「矢田東山」に出る。奈良交通バスで法隆寺方面行きに乗り「中宮寺前」で下車すると駐車場は徒歩所へ行く。戻る。



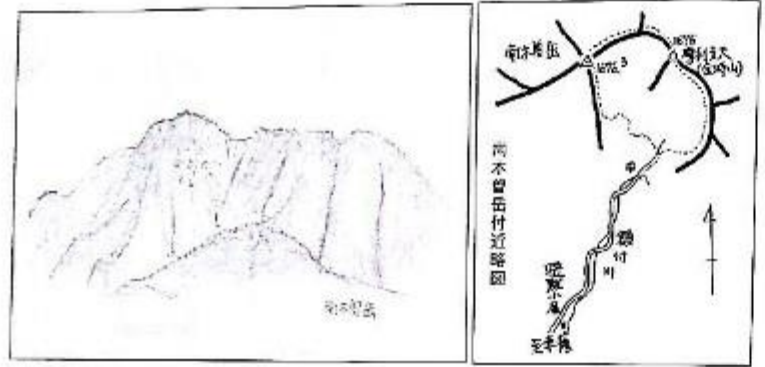
特選コースガイド ③
木曾谷の山
ふたつもり
ニツ森山と
南木曾岳
木曾
上級コース(★★★)
内田 三雄弘

9月の連休にわがクラブの山行案内を各登山と南木曾岳として投函しておいた。
雨飾山や名古屋の安藤富男さんにお会いした折りに、この計画を話すと、
「南木曾岳よりニツ森山が良いです。南木曾岳は頂上近くまで車で登れますから……」
とニツ森山を勧めて下さった。その助言に従い笠置山をニツ森山へと変更。今回のメンバーは、宇治の石村さんと家内と私、そして愛犬アツも連れて行くことにした。
名神高速道路から中央自動車道に入った途端幅道み出し、その上、交通事故も重なって中津川インターチェンジを降りた時は、12時を回っていた。国道257号線を進むとツイン降のニツ森山が迫ってくる。その登山口の切

絶壁には13時近くに着いた。
軽く腹解えをして世と己ノチの積弊を登り、11時頃の登山道からの下りは、背丈を越えるチシマザサのトンネルの道に変わった。それを放り、頂上山頂に入るとホワの木も見られる自然林となり、気分が落ちる。そして、少し登り始めに出て左に折れると山頂で、6畳ぐらゐの広さの岩盤の上に三角点(1229.5m)が埋められていた。見晴らしが良く、笠置山がなだらかな地帯を大きく延ばしていた。アツは、そんな景色などには目もくれず右の壁面に溜った水をペロペロと舐め、私たちははなつくり食事をした。
下山後、坂下町のスーパーで夕食を買い、薬師から新川川を渡って林道の車止めまで乗り入れると、その横に南木曾岳山頂遊覧小屋



があった。私たちはテントを持参していたが、まだ木の香が残っている新築の小屋が気に入って、一晩お世話になることにした。暗くなるに従って曇が降り、明日の天気を気にせずシヨラフに滑り込んだ。翌朝、食事の用意をしていると、名古屋ナンバーの車が一台入ってきた。聞いてもう一台入ってきたが、いずれも単独行であった。その方々につられた頃ではないが、私たちが準備をして登り出す。道標に従って林道を登ると笠置山の案内板がある。そこからさかると整備された山道が始まる。
谷川の丸木橋は、アツは喜んで別のルートを探し飛び石伝いに対岸へと渡ってくる。橋子段も縁がたつて進んだり、滑ったりして私達に付いてきていた。やがて左登山道、右登山道の分岐点に出た。当然、登山道の方を登る。南木曾岳の南麓に取り付いたようだ。ジャンプの登りを繰り返して、最後の大場へ金剛水で咽を潤し絶壁が二ヶ所もある巖壁を登る。



振り返るとドーム状の東郷山が大きく姿を現わしていた。コヤマキの林が重野口元を造つてくれて、急登の割には疲れを感じない。やがて、登道に接するとすぐに樹林の中に三角点(1677.7m)があった。「木曾町岳の一つ(他)に御成、駒ヶ岳、信向の山として修験者も修行した。この中継峠(谷城峠)とも呼ばれ、木曾の南の山という意味から現在の名前をとった。また別名なまびそ岳(なまびそ岳)とも呼ばれるほど雨雲の多い山でもある」と案内板があった。
5-6分ほど北へ行った後、正露草があまり。それに登り、御成、乗鞍、御成、槍を起しながらの食事はことのほか早い。下りはクマザサの繁茂のなかに立ち枯れの木がある高原状の広い緩傾を降り下りして摩利支天(金時山)。ここからは楊子段、緩傾のある一帯の下り登りの時の分岐点に出られた。
平成九年6月23日、24日歩く
▲コースタイム(1)御成峠(45分) 神橋(1-60)のころ(30分) ニツ森山
南木曾岳山頂遊覧小屋(1時間) 分岐点(2時間) 南木曾岳(20分) 摩利支天(1時間30分) 分岐点
(地形図) 五万1付知・巻縮

高山の花、湖原の花
砂高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュツテ
〒949-121
新潟県中頸城郡砂高高原町
池の平温泉 ナガサキロッジ
電話 0255-8612261

汗をたっぷり流せる温泉と
征ヶ峠牛のシヤブシヤブ
日本海の鮮魚と山の平
ハイカークの宿
ナガサキロッジ
〒949-121
新潟県中頸城郡砂高高原町 池の平温泉
電話 0255-8612261

伊勢富士

ほっさかやま

堀坂山

伊勢

初級コース(★)

小山 ひろし

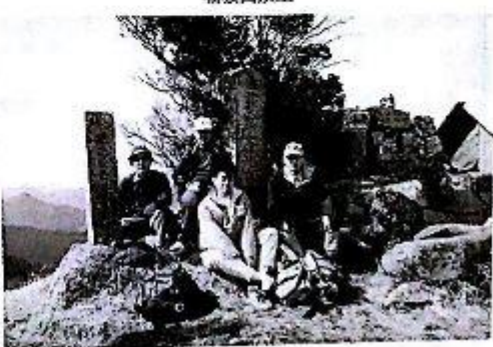
平貝社刊の「三重県の地名」に「伊勢守町の西端にそびえる標高757.4mの高峰が伊勢富士の俗称がある」とある。また同書には「ほっさかやま」のルビが付されているが、「ホツサカヤン」と呼ぶ人が方が多い。

JR松阪駅前から、三重交通バス「阿坂・小野行」の客となり、登山口の「堀坂口」下車。20分、340円である。バスはここで右折するが、そのまま真っ直ぐ県道45号、合ヶ野松阪線を西に向かう。2.5km分、伊勢自動車道の松阪インターと国道166号線をつなぐバイパスを横切り、更に10分程行った所で伊勢自動車道をくぐる。既に民家はなく、正面奥に伊勢富士と堀坂山が見える。ゆるやかな舗装路を徐々に高度をかせぎながら15

分程行くと、小さな梅がある。堀坂川をまたぐ西遊寺橋である。左手に「松阪市森林組合」の「小徑木加工場」がある。ふり向けばはるか、いぶし飯の海が見える。程なく右手に森林公園キャンプ場「丸太小屋」が見えてくる。この辺りで道端が半壊し、杉と梅のうす暗い植林帯に入る。草ならセカンドからローギヤへと、だんだんきつくなる道を、くねくねとたまたま登ること50分。左手(北) 堀坂山と右手(南) 聖言岳(605.9m)の鞍部、標高468mの堀坂峠に達す。ラクラク登山希望の者は、ここまで車で入るとよい。

小休憩をとって靴ひもを締め直し、「堀坂山登山口」の標識に従って左上方の石の鳥居をくぐる。鳥居の隣りに桜の木が一本ある。「しまのやまと心を」とは朝日に匂ふ山桜花、松阪が生んだ回春者、本陣長岡の歌であったのだろうか。そんな季節はずれなことを思いながら、いきなり始まる急坂にとりつく。登るにつれて、袖、杉が雑木に変わる。30分程いい汗をかいた辺りで左手に尾根道を分ける。右手はるかに、至聖堂方面の山並みを見ながら、急登で乱れた息を整える。ここから約10分登頂上であるが、頂上直下のほんの敷地が少しきつい。しかしこれは、頂

堀坂山頂上



上に立った時の満足度を倍増させる為の、自然の丘のちよとした技であろう。

頂上は20~30人はゆつたりとくつろげる程の広さで、西方はるか遠くに大瀬山、尾が坂、その南につきま台前の山々、東眼下に松阪の町、その北側に伊勢の海。暑からず寒からずこの季節には絶好の山である。

昼食休憩をたっぷりとり、おきれいで遊んで、帰りは南東側斜面を一気に下る。湖路



30年くらいの杉と梅の混生林の傾斜はかなりきつい。膝の突いをでいらえながら慎重に下る。所々植林帯が途切れ雑木林に変わる。30分程で行った小さな高層を見。小根を左に見て100m程下った所で林道に出る。「堀坂山登山口」の標識がここにもあるが、こちら側からの登山者は少ない。勢津町を抜け、国道166号線までまだしばらくあるが、あと植林帯を下るだけだ。6~7分で右手に堀坂を見る。川向こうにもう一本林道が延びているが、川は渡らずに世を川に沿って下る。10分程で勢津町上止としよう子に到着。家はまばらで梅の木が多い。やがて下世古を通り

国道757号線の三叉路におつかる。左角に地蔵さんが鎮座し、正面に「木杉松林道」がある。林道に降り立ってから約1.1km、1時間である。道を左にたれば、国道166号線の「大河内」バス停まで2.1km約35分。右にたれば、同じく国道166号線の「江原」バス停まで500m約10分である。「江原」大河内間はバスで3分。「江原」から「JR松阪駅」まではバスで約25分、4800円である。天高き秋の山影を野の野花を染しみながら、のんびり通つてみるのもまた一興かと。
(平成元年10月奉く)

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽 電鉄 京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽万歩ハイキング「喜羽山・外嶽山(朝倉富士)」9月6日(日)集合大阪線桜井駅北札前9時20分(コース) 桜井駅→上居→善住寺→喜羽山→外嶽山(約11.2)金費無料(バス代270円)小入140円は別途上本町事業06(775)3566

▽万歩ハイキング「津風湖・宮滝」9月13日(日)集合時津線大和上市駅前9時30分(コース) 大和上市駅→津風湖湖北口→津風湖別荘→矢治峠→栗橋大橋→宮滝→大和上市駅(約9.2)金費無料(バス代610円)小入310円は別途天王寺事業06(624)0382

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽比良連峰アタック「比良嶽(約10.5)比良岳」10月4日(日)集合比良駅前9時30分(コース) 比良駅→山上駅→金糸峠→南比良峠→荒川峠→鳥谷山→比良岳→木戸峠→クトロノハゲ→天狗杉→びわこパルク駐車場→志賀駅(約9.2)参加自由、交通費別添、京阪東葉部06(944)2222

▽特別企画「大杉峠急降参観・大杉谷・大台ヶ原登山」10月10日(日)12日(祝)集合近鉄山田線松阪駅北改札前15時(コース) 松阪駅→大杉ノ木山→大杉キャンプ場→シシ淵→吉川乗船場→土場津→シシ淵→大杉ノ木山の家(約17.7)参観費06(775)3566

▽特別企画「大杉峠急降参観・大杉谷・大台ヶ原登山」10月10日(日)12日(祝)集合近鉄山田線松阪駅北改札前15時(コース) 松阪駅→大杉ノ木山→大杉キャンプ場→シシ淵→吉川乗船場→土場津→シシ淵→大杉ノ木山の家(約17.7)参観費06(775)3566

京阪

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

南海

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

業06(624)0382

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

▽伊勢谷小滝「杖の平峰」上水船出合「コイケ谷出合」杉峠→雨乞峠→クラ谷→武草峠→三交線の山温泉バス停(約17.2)伊勢谷小滝事業06(624)1799(小入00933)9時10分(1078)自宅宿泊3600円各自支払、行先「山の国」日本山岳道開拓員吉住友一氏、中学生以上当日参加費100円要申込3日前まで(名古屋地区)0593(54)7007(大阪地区)900(775)

'92(五)私鉄)リレーハイキング

阪神 9月13日 雨天の場合は各自当日に調整

22分回 大会一斉下山遊歩→石切遊歩コース(約17.2)

阪神東横線→芦屋川原(南守備河川駅)→会下山遊歩→比奈一宮→打越→打越山→石切遊歩入口→水子川遊歩(解散)

(集合場所) 芦屋川原(南守備河川駅) 8時~11時
 (解散場所) 西陣神社駅前 2180341-4

近鉄 10月25日 雨天の場合は11月1日に調整

22分回 大会一斉赤目四十八滝コース(約17.2)

赤目口駅→赤目小学校→徳興寺(赤目四十八滝渓谷)→赤目出合→寶福寺出合→童子神社→赤目小学校(解散)

(集合場所) 赤目小学校(赤目口駅分庁舎) 8時~10時
 (解散場所) 近鉄上本町駅前 218775-222

主催/近鉄・阪急・京阪・南海・阪神・朝日新聞社

協力/大阪大学・神戸大学・近畿大学・立命館大学の各ワンダーフォーゲル部

神戸電鉄

▽神鉄ハイキング「水無谷と滝橋
谷山ハイイク」 9月15日(祝)東大宮有
馬口駅10時15分(ハコース)有馬口
駅・水無谷・高尾山・滝橋谷山・
湯涌谷・有馬温泉駅(約8.5)滝橋
谷 神鉄観光事業部0778(52
1)0321

▽神鉄ハイキング「新引ハープ風
と分水嶺ハイイク」 10月10日(祝)
集合約前日10時5分(ハコース)
鈴鹿古駅・水瀬池・前川林道・分
水嶺越・布引谷・布引ハープ園
(発着者のみ入園)新神戸駅(約
10.5)一般用 神鉄観光事業部07
8(521)0321

▽神鉄ハイキング「鹿野山と立
枝の里ハイイク」 10月16日(祝)集合
JR藍本駅10時35分(ハコース)J
R藍本駅・滝野神社・鹿野山・立
枝の里 JR相野駅(約12.5)一
般用 神鉄観光事業部0778(5
21)0321

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「広峰山・そう
めん海ハイイク」 9月6日(祝)集合
城北公園10時30分(ハコース)山陽
姫路駅・神姫バス姫路駅前・広峰

山陽電鉄

山陽位山・チラめん滝・孤橋
山陽姫路駅(約9.5)一般用 山陽
電鉄ハイキング係0778(941)
6915

▽山陽ハイキング「須磨月ハイ
イク」 9月20日(祝)集合伏見山手
後6時30分(ハコース)伏見山陽
駅前・旗振山・鉄坊山・おらが山
・須磨寺駅(約4.5)家族用 山陽
電鉄ハイキング係0778(941)
6915

▽山陽ハイキング「萩とススキの
道ハイイク」 10月11日(祝)集合
駅前10時30分(ハコース)美祿駅
・お旅山・小宮土山(寒生山)・日
浜の宮駅(約1.5)一般用 山陽電鉄
ハイキング係0778(941)6
915

▽山陽ハイキング「高尾神社秋祭
りとイモ掘りハイイク」 10月25日
(祝)集合山陽姫路駅10時(ハコース)
山陽姫路駅・出保川河川敷・大2
50・河屋・成山新田・高尾神社
・龍門寺・大宮寺・山陽姫路駅
(7.5)家族用 山陽電鉄ハイキン
グ係0778(941)6915

奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会「難波津

への道・生駒山越え

9月20日
回集合近鉄東生駒駅バス乗り場9
時30分(ハコース)東生駒駅・小畑
中学校・大森先生生駒山万葉歌碑
・生駒山口神社・千光寺・鳴川峠
・東大阪市大万寺町・龍泉山稲荷
神社・近鉄紅蓮山駅(約8.5)や
健康用 難波和田遊男・武庫川
女子大学教授

▽万葉の大和路を歩く会「難波津
びく大和三山」 10月18日(祝)集
合近鉄福原神宮西口駅9時30分(ハ
コース)福原神宮西口駅・安原
・飯塚山神社・飯塚山頂・龍泉神
宮公園・飯塚御陵前駅・本森神社
・飯塚神社・耳成池・立成山
近鉄八木駅(10.5)健康用 山内
英正・甲陽学院(同)教授

▽石の「万葉の大和路を歩く会」
への参加費は無料ですがテキスト
代4000円のはがき代、送料
などが必要。申込制で一週間前ま
でにハガキか電話で。奈良交通万
葉の大和路を歩く会(係07742
(22)1171、〒630奈良
市大宮町1-1の25)

会員募集

大阪低山越え会
主に日帰り関西の山々を巡り
歩いて12年になります。ハイキング
から登山まで、少人数のメンバー
で山と自然に親しんでいるグルー
プです。
少し遠くへ足を伸ばしたいけど
一人では自信のない方、登山ガイド
にも紹介されていない静かな山や
野を歩いてみたい方、私たちはそん
な新鮮な登山スタッフを求めています。
どうぞご入会下さい。
40才以上の男女であれば経験は
問いません。入会は随時、地形図の
読み方、三角点のことなど親切にこ
指導致します。62回切手同封の上左
記へ：
〒536 大阪市城東区野江2の
5の19
櫻井次盛


せせらぎ

たのしかった山行の思い出や記録。四季の
自然情報など。常時投稿下さい。
1行15字詰20行以内。

題字・小林玻璃三

昨年10月に集まった「山と野に
親しむ会」のメンバーの中の、
京都府在住の女性で何となくク
ループが出来た。
5月11日(祝)葛城山へツツジを
見に行くと足の方が不安定かまじく
信長長ロープウェイの予定で出か
けた。総勢8人、平均年齢...才。
予定は未定であって仕方ない
要変更された。これは旧メンバーが
好んで口にした言葉である。
そして、この言葉はまた健在な
つた。

ルに動かし、一日日本といわ
ツツジを目指す。途中、山腰が薄開
和宮木道を見つらお分道。その
あと又ツツジの中を歩く。
ツツジに別れを告げ、自然研究
路へ入った。暑くもなく寒くもな
く木陰の日のざれい山肌には
イカソウワ、チゴユリが静かに咲
いている。
久しぶりの山道に、みんな年輪
をすっきりと伸ばしてしまつた。そし
て、ロープウェイに乗るため並ば
のち、歩いて下るのも、岩場的に
大変はない、そんなんやうたらら



どこへ行こうか
SHC 関西サービス
チェーンへ

①サービスチェーンを利用する
ときは、電話か往復ハガキで
必ず予約して下さい。
②予約のときに料金を確認して
下さい。

29円ケチろうか。反対は1名だ
け。
下り始めは良い道だったのが、
すぐに坂は急になり、こんなはず
じゃあなかったとか、誰か歩こう
と叫ぶたんだとか、なんだかんだ
と約4分、バス停に降りた時は、
足はガクガク気分はムルムル大満
足。
又、どこかへ行きたいなあ、も
うちよっと一山一らしの所がええ
な。私だけやつたらフランクが
長く、ちびっこの心もなしい。誰
かこんなおぼちゃん道でもええ。

<p>名標・二枝登山 小白塚・大白塚・甲 子母須への登山家形、1名でも最寄り 駅まで(要予約) 露天風呂と内湯</p> <p>福島・二枝温泉 日観速 大和館 〒962-136 福島県福島市天守村二枝温泉 0244811362 0244811362 F 0244811841 27621</p>	<p>秋友鉄道) クーポン券も 東武鉄道) 利用できます</p> <p>秩父 不動の湯 〒366 埼玉県秩父市山田243-2 049412311126</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海自然歩道 三回山の麓 三回山の麓 コットンテール キャンプ 〒401-005 山梨県南都留郡山中湖村平野 0555516518515</p> <p>四季降りなす 奥秩父のハイク 上高地・東谷宿へ 冬はスキー けやき並りと味の宿・日観速</p> <p>温泉旅館 けやき山荘 〒390-15 長野県南安曇郡安曇村東谷宿 0263-9312555</p>
---	--	--

山行計画 SHC関西

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、()で日限をとって括弧してあるのは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例に沿って出発の7日前までに到着するように入会して申し込んでください。(費用)のほかに参加名簿代その他の資料代を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなかった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料(日額50円)、夜行口加りの場合は2日になり1000円を支払って頂きます。(A.I.U.保険会社と契約)

傷害保険約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	50000円
通院保険金	25000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。

①ピクニック・6本以上のアイゼン・サイクル・ハンマー・ツカンを使用することを明記した山行、②スキー・使用の山行、③沢・岩・氷雪等はを目的とした山行、④道沿場所内の事故、⑤詳細は係まで

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会員外と記入) 生年月日 (年齢) 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

京都北山歩き(一般向き)	花折峠から天ヶ森(一般向き)
期日 9月13日(日)	期日 9月13日(日)
集合 出町柳駅8時(集合後臨時バスにて出発)	集合 出町柳駅8時(集合後臨時バスにて出発)
コース 出町柳駅→花折峠→P7 82ミタニ峠→天ヶ森 小出石→北大路駅・出町柳駅	コース 出町柳駅→花折峠→天ヶ森 まで歩きます。雨天中止
費用 約2000円(バス代)	費用 約2000円(バス代)
地図 昭文社「京都北山1」	地図 昭文社「京都北山1」
申込み 村田智哉○中西信行 田大群10の10村田まで	申込み 田大群10の10村田まで
期日 9月23日(日)帰りに	期日 9月23日(日)帰りに
集合 京阪宇治駅前8時20分(8時39分発バス乗車)	集合 京阪宇治駅前8時20分(8時39分発バス乗車)
コース 宇治駅→維中前→大塚等 一乗山→三ヶ所→湯屋谷 京阪宇治駅(解散15時頃)	コース 宇治駅→維中前→大塚等 一乗山→三ヶ所→湯屋谷 京阪宇治駅(解散15時頃)
費用 約1500円(バス代)	費用 約1500円(バス代)
地図 昭文社「京都東部 5万」奈良・京都東部	地図 昭文社「京都東部 5万」奈良・京都東部

あなただよる風になりたい スキー場まで歩いて1分 白馬ファミリアペンション 和田 森	〒399-193 長野県北安曇郡 白馬村八方和田野 電話 0266172153551
八ヶ岳南北縦走の中心地 59年秋新築地蔵完成全館国産木の香気う新浴室衛生水電費	オーレン 小屋 1泊2食付き 4500円 4月末11月末開設 茅野市豊平2720 小平 奥 電話 026617211279
日本唯一の女系宗廟の山(大乗山) 百名山の登山口 絹袴ヶ岳女人コースもあり 湯原・名水の里	旅館 紀の国屋甚八 1泊2食付き 7,000円から 1泊3食付き 7,000円から 余呉集吉野郡天川村 電話 074761410309
九村の景賞峰・日本百名山 宮之浦岳に一帯近い宿 屋久島安房登山口	ホテル 磯辺 荘 屋久島電港からバス10分 電話 099741613021

内田家○村田智哉

申込み 田大群10の10村田まで
南山城では唯一の1等三角点峰です。平城の昔から信仰の山として知られ、後醍醐天皇も訪れた山です。時間があれば行場めぐりもします(約1時間30分) 雨天中止

文彦彦山歩き

尼ヶ社から牧園(一般向き)
期日 9月27日(日)帰りに
集合 近鉄御園駅尼ヶ社駅9時
コース 尼ヶ社駅→妙茶屋→滝分→極木峠→青牛駒→四軒→昭光→弘法の木→牧園 雨天中止(小雨決行)

費用 約1000円(京鉄上本町駅迄原安運賃)
地図 昭文社「葛城・二上山」
申込み 田大群10の10村田まで

その昔、大和と河内を結んだ街道のうらやまを味わった道が通る。雨降バスも通らないので、のどかな風情がたぎっている。家蔵「記事」を閲覧。雨天決行

京都北山歩き12

期日 10月4日(日)帰りに
集合 出町柳駅8時(集合後臨時バスにて出発)

コース 出町柳駅→花折峠→寺山峠→二ヶ所→雲取山→雲取峠→寺山峠→花折峠→北大路駅

費用 約3000円
地図 昭文社「京都北山1」
申込み 村田智哉○中西信行 田大群10の10村田まで

コース 湯の山温泉駅(タクシ)→雲取峠→コイケ谷→合合→雲取川→杉峠→南谷→東雨之岳→クラ谷→武平峠→一の谷→湯の山温泉駅

費用 約1000円(タクシー) 小女郎池を歩きます。雨天中止

バス代

昭文社「関在所 鎌ヶ岳」
©長瀬英五○新町幸夫
〒519-003 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫

秋本道の雪道を歩行して、雨乞岳を訪ねます。小雨決行

比良・蓬萊山と小女郎池(一般向き)
期日 10月18日(日)帰りに
集合 京橋駅3番ホーム(朝西線) 中央ホテル付近8時30分(8時44分発)

コース 京都駅→志賀駅→天狗杉→クロトノハゲ→蓬萊山→小女郎池→小女郎谷→蓬萊駅→京橋駅

費用 約1500円(乗車券と保険まで各日で買って集合のこと)

会員募集

KKG 京都北山グループ
「京都北山」をメインに関西の山一円へ日帰りハイキング。四季を通じて、月3〜4回、年間40回以上山行して頂きます。返金もあり。

特に「京都北山」は老若男女の他、未知への追求、をモットーにして、知られないコースも歩きます。「京都北山」を歩いてみたい方はどうぞお申し込み下さい。

経歴、年齢、性別は問いません。入会は随時。申し込み、お問い合わせは左記へ。

(事務局)
〒602 京都市上京区桂木大町小川西入ル
TEL 075(211)0534
TEL 075(211)0534 出口遊次方

山行計画 SHC関西

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、() 自分で限ると特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例に沿って出発の7日前までに到着するように入会して申し込んでください。(費用)のほかに参加名簿代その他の資料代を別途頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなかった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料(日額50円)、夜行口加りの場合は2日になり1000円を支払って頂きます。(A.I.U.保険会社と契約)

傷害保険約内容は次の通りです。

- 死亡・後遺障害保険金額 1000万円
- 入院保険金 50000円
- 通院保険金 25000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。

①ピクニック・6本川以上のアイゼン・サイクル・ハンマー・ツカンを使用することを明記した山行、②スキー・使用の山行、③沢・岩・氷雪等はを目的とした山行、④道沿場所内の事故、(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (空欄でない方は会員外と記入) 生年月日 (年齢) 緊急時の連絡先

返信用ハガキ宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

- 京都北山歩き(花折峠から天ヶ森(一般向き))
- 期日 9月13日(日)
- 集合 出町柳駅8時(集合後臨時バスにて出発)
- コース 出町柳駅→花折峠→P7 82ミタニ峠→天ヶ森 小出石→北大路駅・出町柳駅
- 費用 約2000円(バス代町柳駅)
- 地図 昭文社「京都北山1」
- 係 ◎村田智哉○中西信行
- 申込み 田大群10の10村田まで
- 旧花折峠から展望の屋根を天ヶ森まで歩きます。雨天中止
- 南山城・養峰山(一般向き)
- 期日 9月23日(日)帰りに
- 集合 京阪宇治駅前8時20分(8時39分発バス乗車)
- コース 宇治駅→維中前→大塚等コース→念願寺→安藤峠→養峰山→三ヶ原→湯屋谷コース→湯屋谷バス停→京阪宇治駅(解散16時頃)
- 費用 約1500円(バス代)
- 地図 2万5千→笠置山・朝宮5万→奈良→京都東部部

- あなたのふる里になりたい スキー場まで歩いて1分 白馬ファミリアペンション 和田 森
- 〒399-193 長野県北安曇郡白馬村八方和田野 電話 0266172153551
- ハゲ岳南北縦走の中心地 59年秋新築地蔵完成全館国産木の香気う新浴室衛生水電費
- オーレン 小屋
- 1泊2食付き 45000円
- 4月末11月末開設
- 〒391-102 長野県 茅野市豊平2720 小平 奥 電話 026617211279
- 日本唯一の女子会発祥の山(大菩薩山) 百名山の登山口 絹袴ヶ岳女人コースもあり 湯原・名水の里
- 旅館 紀の国屋甚八
- 1泊2食付き 7000円から
- 〒438-104 静岡県 余良野山野郡天川村福川 電話 0744761410309
- 九州の最高峰・日本百名山 宮之浦岳に一帯近い宿 星久島安房登山口
- ホテル 磯辺 荘
- 星久島安房港からバス10分
- 〒891-143 鹿児島県 鹿嶋郡 鹿嶋町 電話 0999741613021

内田家系○村田智俊

申込み 〒610-0011 茨城県中守田 田大群10の10村田まで

南山城では唯一の一等三角点峰です。平城の昔から信仰の山として知られ、後醍醐天皇も訪れた山です。時間があれば行場めぐりもします(約1時間30分) 雨天中止

文藝座中徒歩

尼ヶ社から牧園(一般向き)

期日 9月27日(日)帰りに

集合 近鉄御園線尼ヶ社駅9時

コース 尼ヶ社駅→妙茶屋→湯分→極木峠→青牛駒→四軒→昭光→弘法の木→牧園神社(約20分)

費用 約1000円(京鉄上本町駅迄原安運賃)

地図 昭文社「葛城・二上山」

係 ◎松本 恵一

申込み 〒580 松本市中2の2の22松本まで

その昔、大和と河内を結んだ街道のうちで最も賑わった道が通る。雨降バスも通らないので、のどかな風情がたぎっている。宗政(記事)が負参詣。雨天決行

京都北山歩き12

嵐山(一般向き)

期日 10月4日(日)帰りに

集合 出町柳駅8時(集合後臨時バスにて出発)

コース 出町柳駅→花折峠→寺山峠→二ヶ谷→嵐山→高取峠→寺山峠→花折峠→北大路駅

費用 約3000円

地図 昭文社「京都北山1」

係 ◎村田智哉○中西信行

申込み 610-0011 茨城県中守田 田大群10の10村田まで

花折峠を越えると空気が澄んで、秋山にふさわしい嵐山へ、雨天中止(小雨決行)

鈴鹿・雨之岳(やや難向き)

期日 10月10日(日)帰りに

集合 近鉄湯塚の山駅終着湯塚の山温泉駅8時45分

コース 湯塚の山温泉駅(タクシー)→湯塚→雨之岳(マイカー合乗)→愛知川→杉峠→雨之岳→東雨之岳→クラ谷→武平峠→一の谷→湯塚の山温泉駅

費用 約1000円(タクシー)

地図 昭文社「比良山系」

係 ◎中西信行○井上保三

申込み 〒610-0011 茨城県中守田 田大群10の10村田まで

色づき始めた比良の展望台から小女郎池を歩きます。雨天中止

バス代

昭文社「関在所・鎌ヶ岳」

◎原盛美五○新町幸夫

〒519-003 鈴鹿市大久保町2065 稲垣逸夫

秋本番の雪空を飛行して、雨乞岳を訪ねます。小雨決行

比良・蓬萊山と小女郎池(一般向き)

期日 10月18日(日)帰りに

集合 京極駅3番ホーム(朝西線) 中央ホテル付近8時30分(8時44分発)

コース 京都駅→志賀駅→天狗杉→クロトノハゲ→蓬萊山→小女郎池→小女郎谷→蓬萊駅→京極駅

費用 約1500円(乗車券返金) 各日で買って集合のこと

地図 昭文社「比良山系」

係 ◎中西信行○井上保三

申込み 〒610-0011 茨城県中守田 田大群10の10村田まで

色づき始めた比良の展望台から小女郎池を歩きます。雨天中止

会員募集

KKG 京都北山グループ

「京都北山」をメインに関西の山一円へ日帰りハイキング。四季を通じて、月3〜4回、年間40回以上山行していきます。近所もあり。

特に「京都北山」は老若男女、その他未知への追求、をモットーにして、知られないコースも歩きます。「京都北山」を歩いてみたい方はどうぞ御入会下さい。

経費 年額、性別は問いません。入会は随時。申し込み、お問い合わせは左記へ。

(事務局)

〒602 京都市上京区桂木大町小川西入ル 出口遊次方

TEL 075(211)0534

山行報告

シヤクナゲ産根と焼杉山

5月10日(日) 曇のち晴
北大路バスターミナル8・50 乗車
合会9・02第1小山7・55

山笠初子 井上隆三 共山笠二

5月13日(日) 快晴
近鉄新宮駅前駅9・00(集合)
一本道前寺5・13 紀寺跡9・42

大津ワケカ道尾尾地11・50(昼

いまにもぬれそつな曇天も午後
ヤケ山からの山登りまでもつてく
れた。こぼれは涙が吹き抜け、展

東京本社

「新ハイキング」(月刊)

東京の「新ハイキング」誌は月刊
です。昭和25年創刊で、以来4年間
全国のハイキングファンに親しま

新ハイキング社

〒116 東京都北区滝野川7-7の6
TEL 03-3991515, 8119
振替口座 東京 3-146915

湯の山温泉14・45 近鉄湯の山温泉

6月21日(日) 曇
出町駅7・30(集合) 7・45 湯
川字駅前8・30 9・15 伊

このページの山行報告を通じて

正しい山歩きを、たのしい山仲間
らとともにしよに味わいませんか

あなたも新ハイキングクラブ関

西に入会してたのしいお仲間にな
りませんか。会費には毎回の「新ハ

正司英茂 和田 豊 和田テル子

下村和弘 伊藤慶吉 湯田末徳子
尾島敦子 伊藤康子 藤田和郎